

北海道公立大学法人

# 札幌医科大学



SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY

大学概要2024

UNIVERSITY OVERVIEW 2024

## 目次

- 1 あいさつ
- 2 建学の精神・理念・教職員の行動規範・  
学生の行動規範
- 3 中期目標
- 4 大学の目的・正職員数
- 5 組織機構・学生数(定員)
- 6 役職員等
- 8 医学部
- 12 保健医療学部
- 16 医療人育成センター
- 18 大学院 医学研究科
- 21 大学院 保健医療学研究科
- 24 専攻科
- 28 附属病院
- 32 学生部
- 32 保健管理センター
- 32 国際交流部
- 34 附属総合情報センター
- 35 附属産学・地域連携センター
- 36 寄附講座・特設講座
- 38 臨床研究活動・最新医療
- 39 標本館
- 40 社会貢献
- 42 施設整備構想
- 44 広場「らてす」・コミュニケーションマーク
- 46 沿革
- 47 交通アクセス・建物施設配置図・  
本学へのご寄附について





札幌医科大学は、北海道立女子医学専門学校を前身に、1950年に戦後初の新制医科大学として開学しました。開学当初は医学部医学科のみの単科医科大学でしたが、1993年に看護学科、理学療法学科、作業療法学科からなる保健医療学部を開設しました。

現在では、両学部・大学院を合わせて約1,300名の学生・大学院生、及び約1,600名の教職員を擁する医療系総合大学へと発展しています。2020年に開学70周年（創基75周年）を迎えた札幌医科大学は、2022年に新キャンパスが完成し、新たなステージへと足を踏み出しました。

これまで、医学部は約6,100名、保健医療学部は約2,500名の卒業生を輩出し、それぞれが道内各地はもとより全国そして世界を舞台に、医療活動や保健行政、教育等の分野で大いに活躍しています。

本学は基本理念として、「人間性豊かな医療人の育成」「地域医療サービスの向上」「国際的・先端的研究の推進」を掲げ、以下のような教育・研究・診療活動に取り組んでいます。

教育に関しては、本学独自のプログラムとして、両学部の学生が合同で地域医療を体験する「地域医療合同セミナー」があります。これは将来の多職種連携や地域医療への貢献を指向するものです。また「クリニカルシミュレーションセンター」や「サージカルトレーニングセンター」など、新しい教育システムを導入しています。過去10年間における医師国家試験の合格率は平均95%、看護師・理学療法士・作業療法士国家試験ではほぼ100%の合格率を達成しています。

研究面においては、本学と民間企業で共同開発した脊髄損傷の治療に用いる自己骨髄間葉系幹細胞の再生医療等製品が、2018年に厚生労働省より条件・期限付きで認可され、2019年5月より世界初の保険診療下での脊髄損傷への再生医療が展開されています。このほか、本学が伝統的に全国をリードしてきたがん研究においては、がんワクチンの開発に向けた研究が進んでいます。

診療面では、附属病院において内科系・外科系ともに最高レベルの先進的医療を提供しています。外科系各診療科においては、手術支援ロボットや内視鏡を用いた低侵襲手術に成果を上げています。「スポーツ医学センター」では、両学部のスタッフが合同でトップアスリートの診療にあたっているほか、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会など国際大会における日本選手の医学サポートに活躍しています。

2020年から始まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックにおいては、本学附属病院は多くの中等症～重症患者の受け入れや、最重症患者に対するECMO（体外式膜型人工肺）治療を推進するとともに、保健所や他の医療施設にも医療スタッフや専門家を派遣するなどして、北海道の感染症診療や保健行政に大きく貢献してきました。今後は、新たな感染症の流行にも対応可能な診療体制の構築と医療者の育成に力を注いでいきます。

本学の建学の精神は、「進取の精神と自由闊達な気風」と「医学・医療の攻究と地域医療への貢献」です。今後も、国際交流を通してグローバルな視野を広げ、先進的な基礎・臨床研究を強力に推進し、その成果を地域医療に還元していく所存です。開学70周年を迎えた本学は、その先に望む100周年を目指して、最高レベルの教育・診療・研究を推進するべく、たゆまない歩みを続けてまいります。



理事長・学長  
山下 敏彦

#### ●大学のコミュニケーションマーク

2023年4月に「新生 札幌医科大学」を象徴するものとして制作しました。社会環境が大きく変化する中で本校がより一層発展し続けるために、教職員および学生が目標を共有し、共に歩を進めるべく「本学の将来像、目指すべき姿」を改めて問い直し、デザインに反映しました。コミュニケーションマークの詳細は、札幌医科大学ホームページに掲載されています。  
<https://web.sapmed.ac.jp/jp/news/photo/uip2022/communicationmark.html>



- 一、進取の精神と自由闊達な気風
- 一、医学・医療の攻究と地域医療への貢献

## 理 念

### 最高レベルの医科大学を目指します

- 人間性豊かな医療人の育成に努めます
- 道民の皆様に対する医療サービスの向上に邁進します
- 国際的・先端的な研究を進めます

### 教職員の行動規範

1. 医学と保健医療学を通じて、北海道そして広く日本社会さらに世界に貢献します。
2. 最高の研究・教育・診療レベルを目指します。
3. 法令を遵守し、生命倫理・研究倫理・社会倫理を尊重します。
4. 地域と社会に対して必要な情報を公開します。
5. 人権・人格・個性を尊重し、差別・ハラスメントの無い環境を目指します。
6. 生命倫理・社会倫理を脅かす反社会的行為に対し毅然として対応します。
7. 地域・地球環境を守り、環境の保全・改善のために行動します。

### 学生の行動規範

1. 札幌医科大学の建学の精神と教育ポリシーを理解し、学内の諸規則を遵守する。
2. 学部、学科、研究科及び専攻科ごとに策定されたディプロマ・ポリシーに求められている知識と能力の修得に努力する。
3. 社会の一員として、他者の人権、人格、個性を尊重し、差別やハラスメントにつながる言動を行わない。
4. 患者、臨床実習に関わる全ての人々並びに大学に所属する全ての学生、教職員に関する個人情報の保護と守秘義務の履行を徹底し、ソーシャル・ネットワーキング・サービスを含めた情報発信などの情報管理に細心の注意を払う。
5. 本学における学習並びに研究活動は社会からの負託を受けていることを理解して学習や研究に努めるとともに、正課外活動などを通して学生としての地域社会貢献並びに国際社会貢献に努力する。

## 中期目標（令和元年度～令和6年度）

建学の精神の下、札幌医科大学が、北海道の地域医療の確保や道民の健康の維持増進に貢献し、道民の誇りとなる大学であり続けることを目指すため、本学の設置者である北海道が、次の6項目を基本とする中期目標を定めています。

また、本学では、この中期目標を達成するための具体的な取組として、中期計画（令和元年度～令和6年度）を定めています。

## 基本目標

1. 創造性に富み人間性豊かな医療人を育成し、本道の地域医療に貢献する。
2. 進取の精神の下、国際的・先端的な研究を推進し、最高レベルの医科大学を目指す。
3. 高度先進医療の開発・提供を行うとともに、救急・災害医療など、本道の基幹病院としての役割を果たす。
4. 地域への医師派遣等を通じ、本道の地域医療提供体制の確保に向け、積極的な役割を果たす。
5. 最新の研究・医療に関する情報の地域社会への提供、より一層の産学官連携等を進め、研究成果の社会還元に努める。
6. 国際交流を推進し、国際的医療・保健の発展に寄与する。



※中期目標、中期計画、年度計画の詳細は、札幌医科大学ホームページ (<https://web.sapmed.ac.jp/>) に掲載されています。

## 大学の目的



札幌医科大学は、医学及び保健医療学に関する学理とその応用を教授し、その深奥を攻究するとともに、進取の精神と自由闊達な気風を旨とする創造性に富み人間性豊かな医療人の育成を行い、もって北海道の医療、保健の発展と福祉の充実に貢献し、人類の文化の進展に寄与することを目的としています。



## 正職員数

(令和6年3月1日現在)

(単位:人)

	計	医 学 部					保健医療学部			医 療	専攻科	附 属	保 健	附 属	事 務	監 査
		医 学 科	附 属 研 究 所	教 育 研 究 機 器 セ ン タ ー	動 物 実 験 施 設 部	サ ト レ ー ニ ン グ セ ン タ ー	看 護 学 科	理 学 療 法 学 科	作 業 療 法 学 科	医 療 人 育 成 セ ン タ ー	公 衆 衛 生 看 護 学 専 攻	助 産 学 専 攻	附 属 病 院	保 健 管 理 セ ン タ ー	附 属 総 合 情 報 セ ン タ ー	局
教 育 職	教 授	76	45	5			10	5	6	5						
	准 教 授	63	34	4	1		5	2	4	12				1		
	講 師	83	60	2		1	11	4	2	3						
	助 教	175	153	7			7	3	1	3					1	
	助 手	6	1		1		3		1							
	計	403	293	18	2	1	36	14	14	23					2	
一 般 職	198	3	1	7	3							60		122	2	
医 療 職	233		1	6	1							225				
看 護 職	826											825	1			
総 計	1,660	296	20	15	5	36	14	14	23			1,110	1	2	122	2

※役員で職員を兼務する者(医学部教授、保健医療学部教授)2名を含む

※職員数は、再雇用職員を含み、兼務の職員を除く

## 組織機構



## 学生数(定員)

区分	入学定員	収容定員
医学部	110	660
保健医療学部	90	360
看護学科	50	200
理学療法学科	20	80
作業療法学科	20	80
大学院医学研究科	60	220
大学院保健医療学研究科	32	72
専攻科	30	30
公衆衛生看護学専攻	15	15
助産学専攻	15	15
計	322	1342



役員

理事長	山下 敏彦	理事 (附属病院担当)	渡辺 敦
副理事長 (業務運営担当)	鈴木 一博	〃 (財務担当)	石田 裕一
理事 (教育研究担当)	齋藤 豪	監事	山崎 博
〃 (教育研究担当)	片寄 正樹	〃	竹内 弘雄

医学部

学部長	(兼) 教授	齋藤 豪
副学部長	(〃) 〃	仲瀬 裕志
〃	(〃) 〃	一宮 慎吾

○学科目

【基礎医学部門】

先端医療知財学	教授	石埜 正穂
遺伝医学	〃	櫻井 晃洋

【臨床医学部門】

産科周産期科学	(兼) 教授	齋藤 豪
医療薬学	〃	福土 将秀
病理診断学	(兼) 〃	橋本 暁佳
放射線診断学	〃	畠中 正光
病院管理学	〃	橋本 暁佳
集中治療医学	(兼) 〃	成松 英智
呼吸器外科学	(兼) 〃	川原田修義
血液内科学	〃	小船 雅義
免疫・リウマチ内科学	〃	高橋 裕樹
医療統計・データ管理学	〃	樋之津史郎
スポーツ医学		

○講座

【基礎医学部門 (13 講座)】

解剖学第一講座	教授	大崎 雄樹
解剖学第二講座	〃	永石 歓和
細胞生理学講座	(兼) 〃	久野 篤史
神経科学講座	(兼) 〃	久野 篤史
医化学講座	〃	高橋 素子
分子生物学講座	〃	鈴木 拓
病理学第一講座	〃	鳥越 俊彦
病理学第二講座	〃	小山内 誠
微生物学講座	〃	横田 伸一
薬理学講座	〃	久野 篤史
衛生学講座	〃	小林 宣道
公衆衛生学講座	〃	大西 浩文
法医学講座	〃	渡邊 智

【臨床医学部門 (24 講座)】

消化器内科学講座	教授	仲瀬 裕志
循環器・腎臓・代謝内科学講座	〃	古橋 真人
呼吸器・アレルギー内科学講座	〃	千葉 弘文
腫瘍内科学講座 (兼)	〃	小船 雅義
神経内科学講座	〃	久原 真
消化器・総合・乳腺・内分泌外科学講座	〃	竹政伊知朗
心臓血管外科学講座	〃	川原田修義
整形外科講座	〃	寺本 篤史
脳神経外科学講座	〃	三國 信啓
産婦人科学講座	〃	齋藤 豪
小児科学講座	〃	津川 毅
眼科学講座	〃	大黒 浩
皮膚科学講座	〃	宇原 久
泌尿器科学講座	〃	舛森 直哉
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	〃	高野 賢一
神経精神医学講座	〃	河西 千秋
放射線医学講座 (兼)	〃	寺本 篤史
麻酔科学講座	〃	山蔭 道明
総合診療医学講座	〃	辻 喜久
感染制御・臨床検査医学講座	〃	高橋 聡
救急医学講座	〃	成松 英智
口腔外科学講座	〃	宮崎 晃巨
リハビリテーション医学講座 (兼)	〃	高橋 聡
形成外科学講座	〃	四ツ柳高敏

○医学部附属研究所

所 長	(兼) 教授	小島 隆
【がん研究所】		
細胞科学部門	〃	小島 隆
ゲノム医科学部門	〃	時野 隆至
【再生医学研究所】		
組織再生学部門 (兼)	〃	一宮 慎吾
神経再生医療学部門	〃	本望 修
【免疫学研究所】		
免疫制御医学部門	〃	一宮 慎吾
分子医学部門	准教授	佐久間裕司

## 保健医療学部

学部長	(兼)	教授	片寄 正樹
副学部長	(〃)	〃	正岡 経子
〃	(〃)	〃	谷口 圭吾

### ○看護学科

学科長	(兼)	教授	今野 美紀
看護学第一講座	〃	〃	堀口 雅美
〃	〃	〃	水口 徹
〃	〃	〃	秋原 志穂
〃	〃	〃	澄川真珠子
看護学第二講座	〃	〃	正岡 経子
〃	〃	〃	平野美千代
看護学第三講座	〃	〃	今野 美紀
〃	〃	〃	丹野 雅也
〃	〃	〃	長谷川真澄
〃	〃	〃	澤田いずみ

### ○理学療法学科

学科長	(兼)	教授	渡邊 耕太
理学療法第一講座	〃	〃	谷口 圭吾
〃	〃	〃	菅原 和広
理学療法第二講座	〃	〃	片寄 正樹
〃	〃	〃	松村 博文
〃	〃	〃	渡邊 耕太

### ○作業療法学科

学科長	(兼)	教授	仙石 泰仁
作業療法第一講座	〃	〃	中村真理子
〃	〃	〃	太田 久晶
〃	〃	〃	齊藤 正樹
作業療法第二講座	〃	〃	仙石 泰仁
〃	〃	〃	池田 望
〃	〃	〃	石井 貴男

## 医療人育成センター

センター長	(兼)	教授	鷲見 紋子
副センター長	(兼)	〃	杉村 政樹

### ○入試・高大連携部門

部門長	(兼)	教授	小山内 誠
副部門長	(〃)	〃	櫻井 晃洋
〃	(〃)	〃	齊藤 正樹

### ○教養教育研究部門

部門長	(兼)	教授	佐々木泰史
-----	-----	----	-------

#### 【学科目】教養教育科目

哲学・倫理学	准教授	船木 祝
心理学	〃	高橋 義信
法学・社会学	〃	旗手 俊彦

英語	教授	佐々木香織
運動科学		(不在)
物理学	教授	鷲見 紋子
化学	〃	白土 明子
生物学	教授	佐々木泰史
数学・情報科学	准教授	大柳 俊夫
〃	〃	加茂 憲一

### ○教育開発研究部門

部門長	教授	杉村 政樹
-----	----	-------

### ○統合 IR 部門

部門長	(兼)	教授	辻 喜久
-----	-----	----	------

### ○応用情報科学部門

部門長	(兼)	教授	佐々木泰史
-----	-----	----	-------

## 専攻科

専攻科長	(兼)	教授	片寄 正樹
公衆衛生看護学専攻	(〃)	〃	平野美千代

助産学専攻	(兼)	教授	正岡 経子
-------	-----	----	-------

# 札幌医科大学教育ポリシー



## ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

医学部では、所定の単位を修得し、以下の要件を修得した学生に学位を授与します。

### 1. 倫理観・社会的責任、プロフェッショナリズムに関する内容(態度)

高い倫理観・責任感を備え、医療者としての使命感をもって患者の立場を重視するとともに、研究マインドをもって医学・医療に生涯を通して貢献できる。

### 2. 地域医療、研究、国際貢献に関する内容(関心・意欲)

幅広い視野をもって積極的に地域医療を担う意欲を育み、先駆的研究に関心をもって国際的な医学・医療の発展に貢献する。

### 3. 基本的医学知識と基本的技術、コミュニケーション能力に関する内容(知識・技能)

基本的な医学知識と技術を習得し、協調性と指導力をもって診療や保健指導、医学研究を实践できる。

### 4. 問題解決・課題探求能力に関する内容(思考・判断)

現状に潜む問題点を課題として提起し、科学的根拠および適確な方法に基づく論理的思考を通して自ら解決できる。

## カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施方針)

前記のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のカリキュラム・ポリシーを基に教育課程を編成し実施します。

### 1. 倫理観・社会的責任、プロフェッショナリズムに関する内容(態度)

- ・多様化する医学・医療の進歩に対応し、変化する社会の要請に応え生涯にわたって学修を継続する医療人としての人間性を涵養する。
- ・立場や背景の異なる他者、弱者を理解し共感する力を身につけるため、ロールモデルによる演習や一般社会の中での実習を組み込んだ教育を行う。
- ・人文科学の視点からの健康・疾病についての考えや、社会における疾病の複合的な面を理解できるよう教養教育、基礎医学、臨床医学の各科目間の連携を重視する。



### 2. 地域医療、研究、国際貢献に関する内容(関心・意欲)

- ・患者と家族を取り巻く社会状況、社会制度、法制度を理解するための実習プログラム、地域拠点と連携した臨床実習を編成して、地域医療に貢献できる人材を育成する。
- ・研究が必要な課題の存在を理解し、先駆的研究に自ら貢献する意志と情熱を昂揚させるよう環境と機会を設ける。
- ・国際的な医療の現状と課題、国際貢献の様々なあり方について理解を深める。



研究風景

### 3. 基本的医学知識と基本的技術、コミュニケーション能力に関する内容(知識・技能)

- ・医療行為や保健指導に必要とされる専門領域での知識と技術を体系的に学修し、獲得した成果を主体的に実践する機会を設ける。
- ・リーダーシップを醸成し、多職種の尊重・共感・協調等を促すための課外活動や社会活動を支援する。

### 4. 問題解決・課題探求能力に関する内容(思考・判断)

- ・PBL (Problem-Based Learning) チュートリアルや TBL (Team-Based Learning) などにより能動的学修を促し、基礎医学実習や診療参加型臨床実習における自己学習、自己評価の過程や結果を重視した教育を行う。
- ・疾病の原因に個人要因以外に社会的な問題も含まれていることを考察し、問題発見・解決型の自己学習ができる教育環境を設ける。



## アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

### 求める学生像

札幌医科大学医学部は、北海道民の健康と医療を守り、地域や国際医療に貢献できる医師及び国際的・先端的研究を通じて世界に貢献できる研究者を育てます。我々は命を尊ぶ心を持ち、病める人を救う情熱のある医師を育てていくために、以下に掲げる能力・資質を有する学生を求めます。

#### 【知識・技能】

1. 高等学校等で学ぶ諸教科に関して高い基礎学力を有し、強い学習意欲を有する人
2. 国際的視野で考え行動し、科学的探究心と創造力を持って生涯にわたって学修に取り組む能力を持っている人

#### 【思考力・判断力・表現力等の能力】

1. 様々な事象に対し、関心と理解力をもつ人
2. 自分自身で得た知識・情報をもとに論理的思考を行うことができる人
3. コミュニケーションに必要な口頭・文章表現力を有する人

#### 【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

1. 積極的に自ら物事に取り組む姿勢を有する人
2. 他者の考えの理解に努め、多様な属性の人々と協調して良好な関係を築くことができる人
3. 社会生活で守らなければならない法律や道徳に従い、良識ある行動ができる人



SD章・SSS章授与



新入生プログラム



「病理学」講義の様子

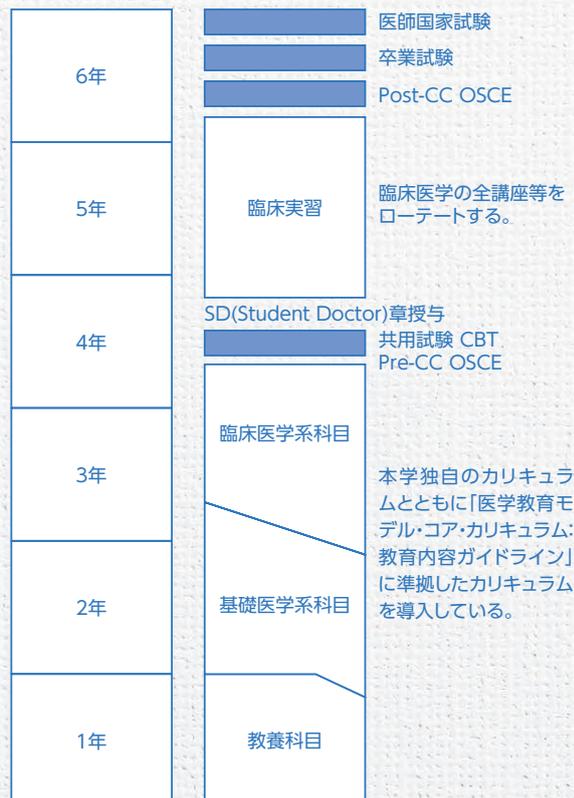
## カリキュラム

本学では、社会の要請に応えうる人間性豊かな医師を育成し、地域医療や国際貢献への志を育む医学教育の環境を整えています。

全国の医学部は、グローバル化に対応するため、国際基準に準拠した医学教育分野別評価を受審することになっており、各大学においては、この基準に適合するよう医学教育プログラムの改革が求められています。

医学部では、文部科学省が進める大学教育改革の Good Practice 事業において、「地域包括型診療参加臨床実習」に取り組む、評価基準に適合する教育プログラムを先駆けて行いました。令和2年度の入学者から評価基準に対応するアウトカム基盤型カリキュラムを新たに導入し、医師・医学者に求められる基本的な資質と能力の涵養、臨床実習のさらなる充実などを目指して、医学教育の改革を継続的に推進しています。

### ○6年間のカリキュラム



## 医学部学生キャリア形成支援

医学部では、一定期間、地域医療に貢献する「卒業必修プログラム」に従事する「先進研修連携枠(ATOP-M)」及び「特別枠」の入学枠を設けています。

また、すべての医学部学生のキャリア形成を支援するため、医学部や医療人育成センター入試・高大連携部門、臨床研修・医師キャリア支援センター、学生部などが一体となって「医学部学生キャリア形成支援委員会」を設置しています。

この委員会を中心に、医学部卒業後に「卒業必修プログラム」に従事しながら、専門医資格や学位を取得できるモデルプログラムを診療科ごとに示した冊子を活用しての説明会の開催や、学生からのキャリア形成に関する相談窓口を設けるなど、学生のサポート体制の充実を図っています。

## 教員組織

講 座	
基礎医学部門	
解剖学第一講座	病理学第二講座
解剖学第二講座	微生物学講座
細胞生理学講座	薬理学講座
神経科学講座	衛生学講座
医化学講座	公衆衛生学講座
分子生物学講座	法医学講座
病理学第一講座	
講 座	
臨床医学部門	
消化器内科学講座	皮膚科学講座
循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	泌尿器科学講座
呼吸器・アレルギー内科学講座	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座
腫瘍内科学講座	神経精神医学講座
神経内科学講座	放射線医学講座
消化器・総合・乳腺・内分泌外科学講座	麻酔科学講座
心臓血管外科学講座	総合診療医学講座
整形外科科学講座	感染制御・臨床検査医学講座
脳神経外科学講座	救急医学講座

講 座	
臨床医学部門	
産婦人科学講座	口腔外科学講座
小児科学講座	リハビリテーション医学講座
眼科学講座	形成外科学講座
学 科 目	
基礎医学部門	
先端医療知財学	遺伝医学
臨床医学部門	
産科周産期科学	集中治療医学
医療薬学	呼吸器外科学
病理診断学	血液内科学
放射線診断学	免疫・リウマチ内科学
病院管理学	医療統計・データ管理学
スポーツ医学	
部 門	
医学部附属研究所	
がん研究所	
細胞科学部門	ゲノム医科学部門
再生医学研究所	
組織再生学部門	神経再生医療学部門
免疫学研究所	
免疫制御医学部門	分子医学部門

## 医学部附属研究所(旧フロンティア医学研究所)



医学部附属がん研究所(昭和30年設置)、医学部教育研究機器センター(平成11年設置)の研究部門を再編統合し、平成23年4月に医学部附属フロンティア医学研究所を設置、その後、令和5年11月に医学部附属研究所として改組しました。

本研究所は、北海道における医療と道民の健康増進に貢献するために、先端医学研究を基盤としてトランスレーショナルリサーチ(橋渡し研究)を志向し、その研究成果を道民に還元することを目的としています。

3研究所6部門(1研究所につき2部門)からなり、17名の専任教員を擁して最先端の医学研究に当たっています。

本研究所では、医学部学生の教育指導(第2・第3学年授業科目の分担及び第3学年の研究室(基礎)配属)のほか、大学院医学研究科の授業科目も担当し、大学院生、研究生の教育・研究指導を行っています。



ゲノム医科学部門

教員組織

がん研究所

細胞科学部門

培養ヒト正常細胞及び細胞生物学的手法を用いて、ヒト疾患の病態解明及び予防治療に役立つ基礎的研究を行います。

ゲノム医科学部門

ヒトゲノム情報を基盤として、癌をはじめとした疾患関連遺伝子の特定、疾患の診断法、有効な予防・治療法などにつながる分子レベルの基礎的研究を行います。

再生医学研究所

組織再生学部門

肝臓の肝幹・前駆細胞と組織構造の構築メカニズムに係る研究を行います。

神経再生医療学部門

難治性疾患に対する幹細胞を用いた再生医療の実現を目指す研究を行います。

免疫学研究所

免疫制御医学部門

免疫異常を背景とした難治性疾患の克服を目指して、機能性リンパ球や抗体産生プログラムなどのヒト免疫システムの制御機構に関わる基礎研究を行います。

分子医学部門

肺癌や肺線維症を分子病理学的、細胞生物学的に解析し、発症や進展の分子機構を解明することを目的としています。

医学部教育研究機器センター



分子生物学的な技術の急速な発展に伴って、現代の医学・生物学研究の手法は急速に発展しています。このため、教育研究機器センターでは、世界的な先端レベルの研究を行えるように、最新の研究機器を備え、研究機器の共同利用はもちろんのこと、基礎研究者と臨床研究者の活発な共同研究等により、世界に貢献できる研究成果が期待されています。

- ・ システム管理部門
- ・ 蛋白質解析部門
- ・ ラジオアイソトープ部門
- ・ 形態解析部門
- ・ 遺伝子解析部門
- ・ 画像・映像支援部門
- ・ 電子顕微鏡部門
- ・ 細胞バンク部門
- ・ 細胞プロセッシング施設



透過型電子顕微鏡

医学部動物実験施設部



先端的な研究や高度先進医療の基礎研究に動物実験は極めて重要な役割を果たしています。動物実験施設部は、先端的研究の場を提供し、これらの研究を様々なかたちでバックアップしています。

動物名	購入数(受入頭数)	1日平均飼育匹数※
ラット	3,169	729
マウス	3,137	3,809
スキッドマウス・ヌードマウス	224	212
モルモット	8	3

※令和4年度



施設内の様子

サージカルトレーニングセンター

令和3年12月1日、医学部に札幌医科大学サージカルトレーニングセンターを新たに設置しました。

本センターは、札幌医科大学白菊会会員様の篤志献体を用いて、医療現場における実践的な臨床能力の向上と、地域における医療人材の育成及び医療技術の向上を図るため、各臨床講座が行う外科手術の研修・トレーニングの支援を行っています。さらに、臨床解剖の教育及び研究、高度な手術手技、新規の手術手技、侵襲の手技の習得、医療機器等の研究開発等を目指しています。

## 教育目標

人間の生命や人権を尊重し、様々な背景を有する人々を生活者の視点で全人的に捉え、共感をもって接することのできる人材を育成する。

文化や価値の多様性を認識し、社会的な視座で諸事象を捉えることのできる人材を育成する。

保健・医療・福祉の支えを要する個人・家族・地域社会に対して、対象の特性に応じた専門性の高い実践を行うための知識・技術の基礎・基本を高いレベルで有する人材を育成する。

専門職としての自覚と責任に基づいて、地域社会に内在する保健・医療・福祉の諸課題に向き合い、現状の改善・改革のために創造的に思考し積極的に行動できる人材を育成する。

保健・医療・福祉における自らの役割・機能を深く認識し、他職種を含む様々な立場の人々と連携・協働できる人材を育成する。

専門的能力の維持・開発に継続的に取り組むとともに、高い自己学習力と向上心をもって看護学・理学療法学・作業療法学の発展に寄与する姿勢を有する人材を育成する。

## 札幌医科大学教育ポリシー



### ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

保健医療学部では、人々の健康と生活を支える看護師、理学療法士、作業療法士の養成、及び看護学、理学療法学、作業療法学の発展、実践の向上に寄与する人材を育成するため、教育目標を設定しています。

この目標の達成に必要な基本的な能力を学部ディプロマ・ポリシーとして定めるとともに、各分野に求められる具体的な能力に関しては、学科ごとに明示します。

保健医療学部では、学部・学科のディプロマ・ポリシーが求める能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学士の学位を授与します。

#### 1. 建学の精神を実現するための基盤となる能力

- 1) 自然や社会の様々な現象を多角的にとらえるための幅広い教養を身につけている。
- 2) 広い視野に立って社会的な諸課題を見つめ、その本質を明確化する能力を身につけている。
- 3) 文化や価値の多様性を受け入れ、人権・人格・個性を尊重して人々に接する能力を身につけている。
- 4) 社会の様々な場面において他者と交流し、自らの思いや考えを的確に表現する能力を身につけている。
- 5) 私たちが暮らす社会の保健・医療・福祉の発展を志向し、主体的に物事に参画する行動力を身につけている。

#### 2. 保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力

- 1) 看護師、理学療法士、作業療法士それぞれの専門領域に求められる体系的な知識と技術を身につけている。
- 2) 各専門領域における課題を明確化し、豊かな発想と科学的思考によって解決策を構想する能力を身につけている。
- 3) 保健・医療・福祉にかかわる様々な人々と連携・協働する能力を身につけている。
- 4) 専門職としての役割と責任を認識し、高い倫理観をもって実践する能力を身につけている。
- 5) 医療の実践、各学問分野の発展のために、生涯にわたって研鑽する意欲と自己学習力を有している。



## カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施方針)

札幌医科大学保健医療学部では、ディプロマ・ポリシーに示す能力を身につけた人材を育成するために、人間・自然・社会を広く学ぶ「一般教育科目」と、専門職、専門分野の基盤となる「専門教育科目」を体系的に編成し、講義・演習・実験・臨地／臨床実習を適切に組み合わせた教育課程を展開します。

学部カリキュラム・ポリシーでは、学部ディプロマ・ポリシーを達成するための3学科共通の基本事項を定め、専門教育科目に関しては、各学科のカリキュラム・ポリシーに具体化します。

### 1. 教育内容

一般教育科目では、創造性と倫理性に富む豊かな人格を形成するための教養を「自然科学」「心理と思考」「社会と文化」「生活と情報」「外国語」に区分し、主に1、2年次に開講します。また、大学生としての自立的な学修活動に必要なスタディスキル等の初年次学修を配置します。

専門教育科目では、看護学・理学療法学・作業療法学の支持科目、北海道の地域特性や、地域医療にかかわる科目で構成する「専門基礎科目」、専門分野の知識と技術を系統的・段階的に学修する「専門科目」、既習の知識と技術の統合が求められる「統合学習」、対象者、関係職種の人々とのかかわりを通して専門職に必要な知識・技術・態度を実践的に学ぶ「臨地実習/臨床実習」で編成します。「統合学習」には、3学科合同のチームで学ぶ「保健医療総論1～4」を各年次に配置し、専門職に求められる基本的な態度と、多職種連携・協働のあり方を学修します。

3、4年次には研究に関する科目を開講し、指導教員のもとで、一連の研究過程を展開します。また、災害医療に関わる基礎的な知識・技術を学修します。生涯を通じた持続的な就業力の育成を目指すキャリア教育とキャリア支援は、各学科の正課内・外を通して行われますが、キャリア形成にかかわる基礎となる諸事項は3年次の合同科目で学びます。

### 2. 教育方法

保健医療学部のカリキュラムは、各学科とも年次進行に即して専門性を深めていく漸進的な設計とし、将来の専門職としてのモチベーションを高めるために、入学後早期より専門基礎科目・専門科目を開講します。また、小規模学部・学科の特徴を活かした少人数の能動的学修を積極的に採用するとともに、事前準備・事後展開を含む質・量を伴う学修過程を展開し、自発的・継続的に学ぶ姿勢を養います。

### 3. 学修成果の評価

ディプロマ・ポリシーに示された学修成果の修得状況に関し、教育課程レベル・科目レベル・学修到達レベルの評価を行うこととし、具体的な内容はアセスメント・ポリシーに定めます。

学生個人の成績評価は、科目シラバスに示す評価対象・評価割合に基づき、試験・レポート・プレゼンテーション等、各科目の教育内容・方法に適した方法で実施します。



「基礎看護方法1」の様子



「理学療法評価診断学」講義の様子

## アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

### 求める学生像

札幌医科大学保健医療学部は、札幌医科大学の建学の精神、理念に基づき、看護師・理学療法士・作業療法士に求められる実践能力やそれぞれの学問分野の発展に寄与する研究能力の基礎・基本を育むことを目的に、ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)、カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施方針)に基づく教育を行っています。このような教育を受けるための条件として、以下に掲げる能力・資質を具えた学生を受け入れます。

#### 【知識・技能】

1. 高等学校の教育課程で学ぶ知識・技能を幅広く、かつ高いレベルで有している

#### 【思考力・判断力・表現力等の能力】

2. 社会の様々な課題について、知識や情報をもとに筋道を立てて論理的に思考し、自分の言葉で表現できる
3. 知的探求心をもって広く社会に目を向け、柔軟な発想で物ごとをとらえることができる

#### 【主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度】

4. 良心と社会規範にしたがって良識ある行動をとることができる
5. 人々との交流を大切に、常に温かな配慮をもって他者と接することができる
6. 自らの成長のために粘り強く物ごとに取り組むことができる

## カリキュラム

教育方針に基づいて、4年間の一貫教育のカリキュラムが編成されており、第1学年においては、主として人間形成に必要な教養を培うための一般教育、専門教育の基礎的科目等の教育を行い、第2学年以降は、専門教育の全般にわたる教育を行います。



### ○4年間のカリキュラム

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
3学科合同カリキュラム	一般教育科目				理学療法学科	専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達				
	専門基礎科目					専門基礎科目 [疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進] [保健医療福祉とリハビリテーションの理念]				
	統合学習 チーム連携と医療実践「保健医療総論」						専門科目 基礎理学療法学			
	統合学習 チーム連携と医療実践「地域医療合同セミナー」						専門科目 理学療法評価学 理学療法治療学 地域理学療法学			
看護学科	専門基礎科目 人間と健康 人間と環境				作業療法学科	専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達				
	専門科目 看護の基本					専門基礎科目 [疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進] [保健医療福祉とリハビリテーションの理念]				
	専門科目 対象の特性と看護活動 地域・集団に対する看護活動 看護の発展と機能の充実*					専門科目 基礎作業療法学				
			統合学習 看護学の統合				専門科目 作業療法評価学 作業療法治療学 地域作業療法学			
	臨床実習					臨床実習				

## 看護学科

### ■少人数教育によるきめ細やかな指導

看護学科の定員は1学年50名、専任教員は約30名。これは全国的に見ても際だった少人数制です。

1人の教員が受け持つ学生数が少なく、学生一人ひとりの個性や能力を尊重した、きめ細やかな指導が行われています。

看護学科では特に重視される臨地実習においても、状況に即した指導が丁寧に行われることで実践力の土台が養われます。



看護学科

## 理学療法学科

### ■独自のカリキュラムによる高い臨床能力の育成

理学療法学科では、理学療法の専門領域を「運動器障害」「中枢神経障害」「内部障害」「発達障害」「地域理学療法」に分け、講義による知識の習得は領域ごとに行い、演習及び実習による技術・技能の取得は統合的に行う独自のカリキュラムを展開し、高い実践能力を育成しています。

また、共通性の高い専門科目群を総括する科目コーディネーターを配置し、科目間の知識・技術の連続性を考慮しながら、学習効率の高い教育を実現しています。



理学療法学科

## 作業療法学科

### ■高い専門性の育成と、実践的な人間教育

作業療法の対象は、身体障害者、精神障害者、高次脳機能障害者、発達障害児・者、高齢者と多岐にわたっています。

そのために医療系職種の中でも、特に幅広い知識が必要であり、医学だけでなく社会科学の知識、人文科学の理解が基礎に求められる職種と言えます。

このため作業療法学科では、一般教育科目を充実させるとともに、専門科目においても、実社会の現実を通して医療人としての人間性を磨く内容となっています。



作業療法学科

## 教員組織

講 座		
看護学科	理学療法学科	作業療法学科
看護学第一講座	理学療法学第一講座	作業療法学第一講座
看護学第二講座		
看護学第三講座	理学療法学第二講座	作業療法学第二講座

## 役割

教養教育と専門教育(医学及び保健医療学)の有機的連携の下、高度な医療技術を有し、かつ、高い医療倫理と教養を備えた人間性豊かな医療人を育成します。

教養・基礎・臨床の卒前教育と卒後の一貫教育に重点を置いたプログラムを作成するなど、本学における医学・保健医療学教育のシンクタンクとして指導的役割を担い、北海道における地域医療に貢献できる医療人を育成します。

## 組織

医療人育成センターは、5部門からなり、医学部及び保健医療学部と密接な関わりを持っています。入学者選抜の実施、高大連携、教養教育及び教育方法の開発研究等、大学の使命を果たすために側面からの支援を行う部局です。

### 入試・高大連携部門

入試・高大連携部門では、入学者選抜の実施と評価を行っています。建学の精神に掲げる「医学・医療の攻究」「地域医療への貢献」を実現するため、入学者選抜の方法や選抜基準、試験問題の分析を行っています。また、北海道内の高校等を訪問し高等学校・大学間の相互理解と連携を図っています。本学の魅力を発信するため、大学案内「LEAP」の作成や学部紹介動画の作成、オープンキャンパス等の広報イベントを開催しています。

医学部では、北海道の医学・医療において指導的・中核的役割を果たす医師の育成を目的に「先進研修連携枠(ATOP-M枠)」を設け、入試枠連動のキャリア形成モデルプログラムを用意しています。



大学案内 LEAP



オープンキャンパス

### 教養教育研究部門

医療人・研究者が身につけるべき学修態度・知識・能力・探究心を高めるために必要な教養教育・専門前教育・専門教育を行うとともに、学術研究による学問発展に貢献します。

#### 教養教育研究部門(9学科目)

哲学・倫理学	英語	化学
心理学	運動科学	生物学
法学・社会学	物理学	数学・情報科学

### 教育開発研究部門

・卒前・卒後一貫教育による医療人育成を行います。

1. 卒前と卒後の一貫した教育プログラムの作成(基礎と臨床の接続及び卒前臨床実習と卒後臨床研修の接続)
2. 教養教育と専門教育における各学部共通カリキュラムの作成と実施指導 等

・教育活動強化のための研究・実践を行います。

1. FD(Faculty Development)、SD(Staff Development)の企画・実施
2. 教育関連GPの企画・立案及び申請の指導
3. 教育評価方法の研究 等



## 統合IR部門

教育に関する情報の収集及び分析をし、本学の教育水準の向上に資することを目的としています。具体的には学生の成績、教育課程、その他の教育活動に関するデータの収集、管理、分析、情報提供を行います。また、卒業後のキャリアに関するデータ収集、分析、情報提供を行い、本学のミッションが学生・卒業生に反映されているかどうかの判定材料を提供し、本学の内部質保証の支援を行います。

## 応用情報科学部門

医学部、保健医療学部の両学部を対象として、医療情報システム、人工知能などに関する教育、医療情報学の知見及びICT (Information and Communication Technology)を活用した先進的な医学・保健医療学の研究を行います。また、本学に必要なとされるデジタル化の推進に貢献するための活動を行います。

## 医学部、保健医療学部合同の地域医療教育(多職種連携教育)

### ■地域医療合同セミナー [医学部・保健医療学部の第1～第4学年対象]

北海道が抱えている医療従事者の偏在や医療過疎という社会的課題を解決し、地域(本道)医療の充実と貢献を果たすため、本学では、早期から地域志向性と使命感を持つ人材の育成に努めています。

その一環として、医療人に限らない幅広い職種(行政、産業等)との連携能力向上を図る教育科目「地域医療合同セミナー」を開講しています。

本科目は、学生自身の実体験に基づいた地域医療に対する理解(地域医療マインド)と、地域医療に欠かせないチーム連携能力を身につけるため、医学部・保健医療学部の学生が合同で地域に滞在して医療実習を行い、地域との相互理解を図るとともに、地域医療に従事する使命感を育てる1～4学年までおよそ3年半の積み上げ式の教育です。

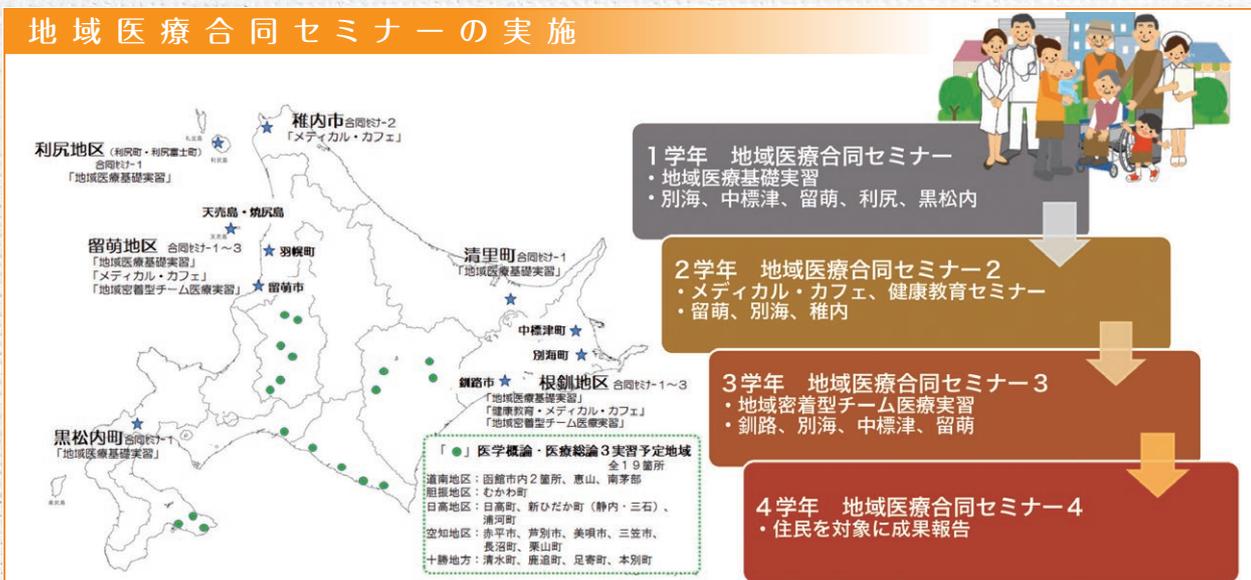


地域医療実習の様子(地域滞在実習)



地域医療実習の様子(健康教育セミナー)

## 地域医療合同セミナーの実施



# 札幌医科大学教育ポリシー



## ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

医学研究科では、所定の単位を修得後、論文審査に合格し、次に掲げる事項を修得したと認められる者に、学位を授与します。

- 【博士課程】**
1. 独創性が高い医学研究を立案、遂行するための技術と知識
  2. 医学研究者にふさわしい倫理観
  3. 先端的な医学研究を指導できるリーダーシップ
  4. 自らの研究成果を世界に発信できる能力
- 【修士課程】**
1. 医科学に関する専門的な知識と基本的技術
  2. 医学研究にかかわる倫理観
  3. 研究の方法論・思考過程を理解し、成果を的確に伝える能力

## カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施方針)

医学研究科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のカリキュラム・ポリシーを基に教育課程を編成し、実施します。

- 【博士課程】**
1. 医学研究遂行のための専門的知識、技術の習得と倫理観の涵養
  2. 医学・医療に関連する問題解決能力とリーダーシップの醸成
  3. 研究成果を国際的に発信するためのコミュニケーション能力の習得
  4. 上記(1~3)の達成を目的として共通講義、主・副研究科目を配置
- 【修士課程】**
1. 医科学に関連する一般的知識の修得
  2. 医学研究に必要な基本的知識、技術の習得と倫理観の涵養
  3. 上記(1, 2)の達成を目的として一般・専門教育科目、特別研究科目を配置

## アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

### 求める学生像

**【博士課程】** 医学研究科・博士課程では、将来、医学研究者となるべき人材として、次のような資質を持った人を求めます。

#### 【知識・技能】

1. 知的好奇心、科学的探究心を持ち、高度な知識・技術の修得に励む人

#### 【思考力・判断力・表現力等の能力】

2. 創造性に富み、応用・発展への意欲を持つ人

#### 【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

3. 高い倫理観を備え、医学の分野で活躍する意思を持つ人

4. 国際的な視野を持ち、社会や科学の問題にあたる気概のある人

**【修士課程】** 医学研究科・修士課程では、将来、高度の医学専門性を必要とする職業を担う人材として、次のような資質を持った人を求めます。

#### 【知識・技能】

1. 知的好奇心、科学的探究心を持ち、医学的な知識・技能の修得に励む人

#### 【思考力・判断力・表現力等の能力】

2. 医科学の専門知識を体系的、集中的に学びとる意欲を持つ人

#### 【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

3. 医科学に関連する様々な価値観を共有し、研究・教育・実務分野における貢献を志す人



## 医学研究科(修士課程・博士課程)の教育

医学研究科は、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的に昭和31年に設置されました。設置以来、約3,200名に学位を授与し、修了者は、各分野で活躍しています。

平成13年4月からは、高度先進化した医学・医療に対応するため、従来の5専攻(生理系、病理系、社会医学系、内科系、外科系)、39科目、入学定員31名の体制から、基礎的、先進的研究を臨床分野に生かす総合的な研究領域で構成された3専攻(地域医療人間総合医学、分子・器官制御医学、情報伝達制御医学)、11領域(58科目)、入学定員50名の体制に再編整備が行われました。

平成20年度からは、分子・器官制御医学専攻に新たに臨床腫瘍医学領域5科目を設置したほか各専攻に「医科学研究コース」と「臨床医学研究コース」を整備しており、平成30年度からは新たに「がん研究コース」が設置されました。「医科学研究コース」では将来の研究者や教育者を養成し、医学部出身に限らず、医学研究を志すさまざまな学問分野の学生に対して広く門戸を開放しています。「臨床医学研究コース」は初期研修の2年目から医師を迎え入れ地域で活躍する高度専門臨床医を養成します。「がん研究コース」は、がん専門医学の新たなニーズに対応できる優れた「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」を養成します。いずれのコースも幅広い基礎知識を涵養しながら研究を行い、科学的・客観的・倫理的考え方を身に付けます。本学では、先端的な医学研究

を学ぶため、外部研究者を招へいたセミナーを開催するなど、多彩な講義が受講できるほか、遠隔地に居住する学生のために、e-ラーニングで受講できる講義も数多く用意しています。

また、平成20年4月に開設した医科学専攻(修士課程)においては、学部出身を問わず様々な背景を持つ学生を受入れており、幅広い医学知識と高い見識を有する専門的職業人を養成するほか、深い医学知識を兼ね備え持つ研究者を育成しており、大学院博士課程に進学することも可能です。



医学研究科60周年記念講演会



研究風景

R6年度 教育研究分野

修士課程	
区分	授業科目
一般教育	生体情報学(I)(II)
	生体機能形態学(I)(II)
	社会医学
	病態学(I)(II)
	医療倫理学
	医療心理学
専門教育	臨床医学(I)(II)(III)(IV)
	放射線医学
	健康行動科学
	神経科学
	がんゲノム遺伝学
	基礎人類遺伝学
	臨床遺伝学
	遺伝カウンセリング演習
	分子細胞生物学
	生体分子形態学
	ゲノム医科学
	分子医学
	応用分子生物学
	臓器発生・再生医学
免疫制御医学	
腫瘍免疫学	
腫瘍病理学	
臨床免疫学	
臨床病態学	
消化器病腫瘍学	
循環腎機能病態学	
呼吸機能制御医学	
循環機能治療学	
視覚機能制御医学	
感覚機能医学	
皮膚腫瘍学	
外科腫瘍学・消化器外科治療学	
口腔機能治療学	
環境保健予防医学	
公衆衛生学	
医療統計・データ管理学	
法医学	
精神機能病態学	
総合診療医学	
分子細胞機能学	
分子医化学	
分子病態生物学	
時間感染症学	
リハビリテーション学	
整形外科学	
中枢神経機能治療学	
神経・筋機能病態学	
医療薬学	
加齢制御薬理学	
生体機能制御医学	
生体危機管理学	
放射線腫瘍学・放射線医学物理学	
腎・尿路・生殖器治療学	
脳神経機能学	
細胞機能情報学	
生体機能構造学	
医学領域知的財産学	
神経再生医療学	
感染防御・制御学	
臨床遺伝学	
遺伝カウンセリング実習	

医学専攻

特別研究

博士課程			
領域	授業科目	領域	授業科目
地域医療総合医学	総合診療医学	臨床腫瘍医学	がん薬物療法学
	医療統計・データ管理学		応用血液腫瘍制御学
	環境保健予防医学		放射線腫瘍学・放射線医学物理学
	公衆衛生学		緩和医療学
人間総合医療学	リハビリテーション学	遺伝子医学	外科腫瘍学・消化器外科治療学
	法医学		ゲノム医科学
	医療薬学		分子医学
	時間感染症学		分子細胞生物学
地域医療人間総合医学専攻	医学領域知的財産学	分子腫瘍医学	腫瘍病理学
	臨床遺伝学		皮膚腫瘍学
	消化器病腫瘍学		腫瘍免疫学
	呼吸機能制御医学		放射線診断学
発生分化加齢制御医学	呼吸器外科学	器官機能治療学	循環機能治療学
	臓器発生・再生医学		整形外科学
	神経再生医療学		腎・尿路・生殖器治療学
	発達小児科学		口腔機能治療学
生体防御医学	循環腎機能病態学	情報伝達制御医学専攻	形態・体表機能再生学
	心血管・腎・代謝病態学		婦人生殖器・内分泌治療学
	感染防御・制御学		臨床免疫学
	侵襲制御医学		
生体機能制御医学	生体危機管理学	神経科学	脳神経機能学
	生体機能制御医学		加齢制御薬理学
			神経・筋機能病態学
			精神機能病態学
		生体機能制御医学	中枢神経機能治療学
			視覚機能制御医学
			頭頸部腫瘍学
			細胞機能情報学
		生体構造情報学	分子医化学
			分子生物学
			臨床病態学
			免疫制御医学
			分子細胞機能学
			分子病態生物学
			生体分子形態学
			生体機能構造学
			分子細胞科学



外部研究者による講演



医学研究科市民公開講座

# 札幌医科大学教育ポリシー



## ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

### ○看護学専攻

#### 【博士課程前期】

看護学専攻では、2年以上在籍し、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文又は課題研究論文の審査及び最終試験に合格し、次のような能力を身につけた学生に修士(看護学)の学位を授与します。

1. 自己の専門分野に関する知識と技術、および関連領域に係わる基礎的素養
2. 研究の概念、研究法、研究倫理など、研究者に求められる基本的知識の修得
3. 適切な指導のもとに、看護学の研究課題を設定し、研究方法を組み立てる能力
4. 基本的な研究手法を用いて研究を遂行する能力
5. 研究者および高度実践看護師に求められる批判力・論理的思考力・表現力
6. 研究者および高度実践看護師に求められる倫理を遵守し、行動する能力

#### 【博士課程後期】

看護学専攻では、3年以上在籍し、所定の単位を修得し、かつ博士論文の審査及び最終試験に合格し、次のような能力を有すると認められる者に博士の学位を授与します。

1. 専門分野における深い学識と関連領域に係る学際的知識の修得
2. 独創的な視点で研究を立案・計画し、厳格な倫理性をもって自ら遂行する能力
3. 看護学の理論の構築や技術の向上において新たな知を創造する能力
4. 研究成果を国内外に発信し、看護学の教育・研究・実践の発展に貢献できる能力

### ○理学療法学・作業療法学専攻

#### 【博士課程前期】

理学療法学・作業療法学専攻では、2年以上在籍し、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文又は課題研究論文の審査及び最終試験に合格し、次のような能力を身につけた学生に修士の学位を授与します。

1. 専門分野に関する知識と理学療法学・作業療法学の関連領域に係わる基礎的素養
2. 研究の概念、研究法、研究倫理など、研究者に求められる基本的知識の修得
3. 適切な指導のもとに、理学療法学・作業療法学あるいはその関連領域の研究課題を設定し、研究方法を組み立てる能力
4. 基本的な研究手法を用いて研究を遂行する能力
5. 研究者に求められる批判力・論理的思考力・表現力
6. 研究者に求められる倫理を遵守し、行動する能力

#### 【博士課程後期】

理学療法学・作業療法学専攻では、3年以上在籍し、所定の単位を修得し、かつ博士論文の審査及び最終試験に合格し、次のような能力を有すると認められる者に博士の学位を授与します。

1. 専門分野における深い学識と関連領域に係る学際的知識の修得
2. 独創的な視点で研究を立案・計画し、厳格な倫理性をもって自ら遂行する能力
3. 理学療法学・作業療法学の理論の構築や技術の向上において新たな知を創造する能力
4. 研究成果を国内外に発信し、理学療法学・作業療法学の教育・研究・実践の発展に貢献できる能力

## カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施方針)

### ○看護学専攻

看護学専攻では、学位授与方針に掲げる能力を有する人材を育成するため、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

#### 【博士課程前期】

1. 教育課程は、講義・演習中心のコースワークと、指導のもとに研究過程を展開するリサーチワークの組み合わせにより編成する。



- 1)コースワーク
  - (1)当該分野の専門的知識・技術を修得するための科目を設定する。
  - (2)看護学の関連領域の幅広い知識を修得するための科目を設定する。
  - (3)研究法、研究倫理などの研究者に求められる基本的な知識を修得するための科目を設定する。
  - (4)文献検討やプレゼンテーション、ディスカッション等を通して、批判力、論理的思考力、表現力を涵養する。
  - (5)専門看護師コースにおいては、高度実践看護師に求められる実践・教育・倫理調整等に関する知識と技術を修得する。
  - (6)専門看護師コースにおいては、専門分野の臨地実習によって優れた実践能力を形成する。

#### 2)リサーチワーク

- (1)看護学特別研究等において、指導のもとに当該分野に関する研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。
  - (2)研究計画書審査・倫理審査を経て研究を進め、論文作成、学位審査等の過程を通して、基本的な研究力を育成する。
2. 学部学生を対象とする講義・演習・実習にティーチングアシスタントとして参加する機会を設定し、基本的な教育力を育成する。
  3. 共通科目の履修を通して他分野の学生との共同学習を行い、他職種との連携能力を涵養する。

#### 【博士課程後期】

1. 看護学の理論の構築や技術の向上等に係わるコースワークと、指導を受けつつ自らが研究過程を展開するリサーチワークにより、研究者としての能力を高める。
2. 学内外の学術研究に触れる機会を設定することで研究の手法やデザインを学び、自立した研究者となるための能力を高める。
3. 研究課題に係わる論文公表や国内外での学会発表等により当該分野の研究者との交流を深める。

#### ○理学療法学・作業療法学専攻

理学療法学・作業療法学専攻では、学位授与方針に掲げる能力を有する人材を育成するため、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

#### 【博士課程前期】

1. 教育課程は、講義・演習中心のコースワークと、指導のもとに研究過程を展開するリサーチワークの組み合わせにより編成する。

#### 1)コースワーク

- (1)当該分野の専門的知識・技術を修得するための科目を設定する。
- (2)理学療法学・作業療法学の関連領域の幅広い知識を修得するための科目を設定する。
- (3)研究法、研究倫理などの研究者に求められる基本的な知識を修得するための科目を設定する。
- (4)文献検討やプレゼンテーション、ディスカッション等を通して、批判力、論理的思考力、表現力を涵養する。

#### 2)リサーチワーク

- (1)理学療法学・作業療法学特別研究等において、指導のもとに当該分野に関する研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。
  - (2)研究計画書審査・倫理審査を経て研究を進め、論文作成、学位審査等の過程を通して、基本的な教育力を育成する。
2. 学部学生を対象とする講義・演習・実習にティーチングアシスタントとして参加する機会を設定し、基本的な教育力を育成する。
  3. 共通科目の履修を通して他分野の学生との共同学習を行い、他職種との連携能力を涵養する。

#### 【博士課程後期】

1. 理学療法学・作業療法学の理論構築や治療技術の開発等に係わるコースワークと、指導を受けつつ自らが研究過程を展開するリサーチワークにより、研究者としての能力を高める。
2. リサーチアシスタントとして学術研究に係わる機会を設定することで、研究の手法やデザインを学び、自立した研究者となるための能力を高める。
3. 研究課題に係わる論文公表や国内外での学会発表等により当該分野の研究者との交流を深める。

## アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

### 求める学生像

保健医療学研究科では、看護学・理学療法学・作業療法学の発展と、保健・医療・福祉の質の向上に寄与する高度な専門的知識、実践能力、研究能力を備えた実践者、研究者の育成を目指しています。そのため、以下のような人材を求めます。

**【博士課程前期】**

**【知識・技能】**

1. 看護学・理学療法学・作業療法学に関する専門的な知識と技術を備え、批判的・論理的思考力を有している人

**【思考力・判断力・表現力等の能力】**

2. 保健・医療・福祉の諸問題に深い関心を持ち、その発展と問題解決に関わることを自己の目標としている人

**【主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度】**

3. 多様化・複雑化する人々のニーズに応えるため、専門分野における卓越した実践能力を獲得したいと願っている人

4. 豊かな人間性と論理性を有し、地域の保健・医療・福祉に貢献する意思のある人

5. 研究成果を発信することにより、保健・医療・福祉の充実と発展に貢献する意思のある人

**【博士課程後期】**

**【知識・技能】**

1. 看護学・理学療法学・作業療法学に関する専門的な学識、批判的・論理的思考力と科学的探求心を備え、新たな知の創造に意欲を有する人

**【思考力・判断力・表現力等の能力】**

2. 保健・医療・福祉の諸問題に広く深い関心を持ち、その発展と問題解決に関わることを自己の目標としている人

**【主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度】**

3. 豊かな人間性と倫理性を有し、国際的な視座で人々の健康に貢献する意思のある人

4. 研究成果を国内外に広く発信することにより、保健・医療・福祉の発展に貢献するとともに、科学の発展に寄与したいと願う人

**保健医療学研究科(博士課程前期・博士課程後期)の教育**

保健医療学研究科は、看護学専攻、理学療法学・作業療法学専攻を置き、それぞれに博士課程前期(修士)と博士課程後期(博士)の課程を設置しています。

博士課程前期は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力や高度な専門性を要する職業等に必要能力を養うことを目的に、平成10年4月に設置されました。看護学専攻では、専門分野の研究能力を高める修士論文コースのほか、平成18年から専門看護師(Certified Nurse Specialist =CNS)コースを設置し、質の高い実践者育成のプログラムも用意しています。

博士課程後期は、専門分野について、研究者として自立して研究活動を行い、また、高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的に、理学療法学・作業療法学専攻は平成12年4月に、また、看護学専攻は平成18年4月に設置されました。

本研究科では、地域社会の信頼に応え得る、自立・自律した保健医療人を育成するために、多様なニーズに対応できるプログラムの充実、専門分野の学問及び学術活動の発展を目指し、研究・指導体制を整えています。また、在職のまま就学する社会人に配慮した長期履修制度を実施しています。

大学院修了後は、その分野のリーダーとして北海道はもとより、国際的に活躍できる専門職となることが期待されています。

**▶ R6年度 教育研究領域**

博士課程前期		博士課程前期		博士課程後期		博士課程後期	
教育研究領域		教育研究領域		教育研究領域		教育研究領域	
看護学専攻・看護学六力野	修士論文コース	理学療法学・作業療法学専攻 理学療法学六力野 作業療法学六力野	神経・発達障害理学療法学	看護学専攻・看護学六力野	基礎看護科学	理学療法学・作業療法学専攻 理学療法学六力野 作業療法学六力野	神経・発達障害理学療法学
	基礎看護科学		生体工学・スポーツ整形外科学		感染看護学		生体工学・スポーツ整形外科学
	感染看護学		スポーツ理学療法学		女性健康看護学		スポーツ理学療法学
	女性健康看護学		筋機能制御学		小児健康看護学		筋機能制御学
	小児健康看護学		生体機能評価学		成人健康看護学		生体機能評価学
	成人健康看護学		形態人類学		老年健康看護学		形態人類学
	老年健康看護学		感覚統合障害学		精神看護学		感覚統合障害学
	精神看護学		中枢神経機能障害学		地域看護学		中枢神経機能障害学
	地域看護学		活動能力障害学		臨床内科学		活動能力障害学
	臨床内科学		臨床精神・脳機能学		臨床外科学		臨床精神・脳機能学
	臨床外科学		精神障害リハビリテーション学				精神障害リハビリテーション学
	小児看護		神経・認知機能治療学				神経・認知機能治療学
クリティカルケア看護	作業科学						
精神看護							

# 札幌医科大学教育ポリシー



## アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

札幌医科大学専攻科は、北海道の保健・医療・福祉に貢献する、高度な知識と優れた技術を備えた創造性に富む人間性豊かな保健師・助産師を育成することを目的としています。そのため次に掲げるポリシーにより学生を求めます。

### ■求める学生像

1. 北海道の保健・医療・福祉に深い興味・関心を有し、保健師もしくは助産師として地域に貢献したいと考えている人
2. 公衆衛生看護学、もしくは助産学に関わる知識・技術の基礎・基本を高いレベルで修得している人
3. 看護上の諸課題の解決に必要な実践力を有している人
4. 多様な価値を尊重し、高い倫理観をもって行動する姿勢を有している人
5. 看護職としての役割と責任を認識し、専門職としてのキャリアデザインを描いている人

### ■入学者選抜のねらい

看護学一般に関する客観問題と記述問題からなる学科試験を課し、公衆衛生看護学または助産学を学ぶ上で必要とされる知識を確認するとともに、公衆衛生看護学実践または助産学実践への意欲や課題意識、将来の保健師や助産師としての適性を評価します。

## 公衆衛生看護学専攻

### 教育目標

公衆衛生看護学専攻では、地域ケアシステムの構築と地域社会の多様なニーズに応える保健師としての基礎を培うため、以下の教育目標を掲げます。

1. 地域住民の健康と安寧を支える実践能力の基礎となる高いレベルの知識・技術を有する人材を育成する。
2. 広い視野をもって社会の動きを見据え、地域に存在する健康課題を捉える能力を有する人材を育成する。
3. 社会の健康課題の解決に向けた社会資源の開発やシステム化、施策化に参画できる人材を育成する。
4. 地域住民、関係機関、多職種と連携・協働し、パートナーシップに基づいて組織的に活動できる人材を育成する。
5. 人々の生命や人権を尊重するとともに、社会的公正を活動の基盤とし、専門職に求められる倫理に即して行動できる人材を育成する。
6. 公衆衛生看護の質的向上のために継続的に自己研鑽し、自らの能力の維持・開発、公衆衛生看護学を探究する態度を有する人材を育成する。

### ディプロマ・ポリシー(修了証書授与方針)

公衆衛生看護学専攻は、地域保健を担う保健師に求められる専門性と実践力を兼ね備え、所定の単位を修得した学生に保健師国家試験受験資格を付与するとともに、修了証書を授与します。

1. 地域に存在する健康課題を明確化し、事業計画を立案して組織的に解決するための公衆衛生看護学及び関連分野の知識・技術を身につけている。
2. 豊かなソーシャルキャピタルの醸成を目指して、地域に出向き、地域に根差した実践を展開するための基礎的な能力を身につけている。
3. 地域の健康課題を解決するための社会資源の開発やシステム化、施策化に参画する能力を身につけている。
4. 地域住民、関係機関、多職種の人々と信頼関係を築き、連携・協働する能力を身につけている。
5. 保健師としての役割と責任を認識し、高い倫理観をもって実践する能力を身につけている。
6. 地域住民の健康の保持・増進、地域社会の安寧、公衆衛生看護の充実と発展のために、生涯にわたって研鑽する意欲と自己学習力を身につけている。



## カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施方針)

公衆衛生看護学専攻は、修了証書授与方針に掲げた能力を有する人材を育成するために、以下のように教育課程を編成し、実施します。

- 教育課程は、「専門領域」「関連領域」「臨地実習」で編成する。
  - 専門領域では、公衆衛生看護の目的・対象、保健師の役割や専門職としての責務や倫理を学ぶ。加えて、公衆衛生看護の対象である個人／家族、地区／小地域、地域のアセスメント、地域社会がかかえる健康課題の解決に必要な知識・技術を学ぶ。
  - 関連領域では、疫学や保健統計、保健福祉行政等の専門分野を支える知識を学ぶとともに、人々の健康に深く関わる環境や社会の多様性に対応するためのコミュニケーションスキル、将来の保健師としてのキャリアデザインについて学ぶ。
  - 臨地実習では、行政・学校・産業・地域において、学内で学んだ知識と技術と統合し、公衆衛生看護の実践能力の向上をはかる。
- 公衆衛生看護学及び看護実践に必要な知識と技術の修得レベルを高めるため、事前準備と事後展開を含む質・量の伴う学修過程を展開する。
- 少人数グループでの能動的学修を積極的にとり入れるとともに、個別状況に応じた学修支援を行うことにより、学生個々が高水準の知識・技術を修得できる教育環境のもとにカリキュラムを展開する。
- 将来の保健師としてのキャリアプランを具体化するため、行政・学校・産業の場で活躍する現職保健師との交流や地域等におけるインターンシップなど、キャリアイメージを高め、職業アイデンティティの形成を促す機会を設定する。

## 教育の特徴

教育目標を達成するため、カリキュラムは、複雑な健康課題を有する個人やグループへの支援、地区や組織との協働、施策化といった保健師に求められる能力の基盤となる知識と技術を幅広く学べる科目群で構成しています。

災害保健指導、キャリアデザインセミナーなどの特色ある科目や、高い実践力を修得するために多様な実習施設における長期間の臨地実習を配しているのが特徴です。将来の保健師として学ぶべきことは多岐に渡りますが、実践的な学修と思考を深める時間をバランスよく配置し、スケジュールにゆとりをもたせる工夫を行っています。

授業は、本学の公衆衛生学・地域看護学を専門とする教員を中心に、関連分野の教員、道内の地域保健で活躍する講師陣が担当します。

【授業科目】 ※( )内は単位数

【専門領域】	【関連領域】	【臨地実習】
公衆衛生看護学原論1(1)	疫学(2)	公衆衛生看護実習1(2)
公衆衛生看護学原論2(1)	保健統計学(2)	公衆衛生看護実習2(2)
公衆衛生看護管理論(2)	保健医療福祉行政論1(2)	公衆衛生看護管理実習(1)
公衆衛生看護活動展開論1(1)	保健医療福祉行政論2(2)	産業保健実習(1)
公衆衛生看護活動展開論2(1)	国際文化コミュニケーション(1)	学校保健実習(1)
公衆衛生看護学研究(2)	キャリアデザインセミナー(1)	地域包括ケア実習(1)
環境保健論(1)		
家族看護論(1)		
在宅看護論(1)		
健康教育論1(1)		
健康教育論2(1)		
親子保健指導(1)		
成人保健指導(1)		
高齢者保健指導(1)		
地域精神保健(1)		
学校保健指導(1)		
産業保健指導(1)		
災害保健指導(1)		

30科目、  
合計38単位  
(全て必修)

【修業年限】1年(定員15名)

【取得できる資格等】

- ・保健師国家試験受験資格
- ・保健師国家試験合格後  
第1種衛生管理者の申請資格



## 助産学専攻

### 教育目標

助産学専攻では、教育理念を実現し、社会の要請に応える助産師としての基礎を培うため、以下の教育目標を掲げます。

1. 妊娠・出産・産褥の過程、その後の育児に関わる母子やその家族、及び女性の生涯の健康を支援するために必要な知識・技術を有する人材を育成する。
2. 広い視野のもとに、多角的・多面的に女性の健康に向き合う姿勢を有する人材を育成する。
3. 対象となる女性と家族の多様性を尊重し、相互信頼に基づく支援と支持を実行しうる能力を有する人材を育成する。
4. 助産実践に際しては他職種と協働しながら専門的な知識・技術を活用し、専門職としての責任と責務を主体的に遂行する能力を有する人材を育成する。
5. 人間の尊厳と生命の尊重を基盤に、専門職である助産師に求められる倫理に即して行動できる人材を育成する。
6. 助産実践の質的向上のために継続的に自己研鑽し、助産に関する能力の維持・開発、助産学を探究する態度を有する人材を育成する。

### ディプロマ・ポリシー(修了証書授与方針)

助産学専攻は、地域の母子保健・周産期医療を担う助産師に求められる専門性と実践力を兼ね備え、所定の単位を修得した学生に助産師国家試験受験資格を付与するとともに、修了証書を授与します。

1. 妊娠・出産・産褥の過程において正常経過の判断と異常を早期に発見するための助産学及び関連分野の知識・技術を実践に活用する能力を身につけている。
2. 妊娠・出産・産褥の過程において正常経過をたどる女性と子ども、家族の状況に即した基本的な助産ケアを的確に実施できる能力を身につけている。
3. 妊娠・出産・産褥においてハイリスクな状態にある女性や子どもの経過判断を的確に行い、必要なケアを実施する能力を身につけている。
4. 助産実践の対象となる全ての女性、とりわけ妊娠・出産・産褥の過程における女性や家族と信頼関係を築き、発展させる能力を身につけている。
5. 助産実践の充実と発展のために助産師チームの連帯性を高めるとともに、保健医療チームにおいて他の保健医療関係者と連携・協働する能力を身につけている。
6. 地域の母子保健・周産期医療を取り巻く諸課題に向き合い、それらの充実と発展を志向し、行動する能力を身につけている。
7. 助産師としてのプロフェッショナリズムを高め、研鑽し続ける能力を身につけている。

## カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施方針)

助産学専攻は、修了証書授与方針に掲げた能力を有する人材を育成するために、以下のように教育課程を編成し、実施します。

1. 教育課程は、「助産学の基礎領域」「助産学の実践領域」「助産学の関連領域」で編成する。
  - 1) 助産学の基礎領域では、助産の目的・対象、助産実践の基盤となる周産期医学や胎児・新生児学の知識に加え、性と生殖に係わる健康支援者としての役割、専門職としての責務と倫理を学修する。
  - 2) 助産学の実践領域では、さまざまな健康レベルにある妊産褥婦と新生児に対するアセスメント、出産に向けた身体的準備性と回復力を高める助産ケアの基本、多様な施設における助産管理の実際を学ぶ。実習では、自らの助産活動を通して知識と技術を統合し、実践能力を高める。
  - 3) 助産学の関連領域では、子育て中の女性と家族に対する支援、地域における母子保健の課題を解決するための助産師の役割について学ぶ。加えて、最新の知見をもとに助産実践に対する洞察を深め、効果的なケアを創造する能力を養う。
2. 助産学及び助産実践に必要な知識と技術の修得レベルを高めるため、事前準備と事後展開を含む質・量の伴う学修過程を展開する。
3. 少人数グループでの能動的学修を多くとり入れるとともに、個別指導による学修支援を充実させ、学生個々が高水準の知識・技術を修得できる教育環境のもとにカリキュラムを展開する。
4. 将来の助産師としてのキャリアプランを具現化するため、周産期母子医療センター、病院、助産所及び地域で活躍する現職助産師と交流し、キャリアイメージを高め、職業アイデンティティの形成を促す機会を設定する。

## 教育の特徴

教育目標を達成するため、カリキュラムは助産学の基盤となる基礎領域、助産ケアに直接関わる実践領域、助産師としての質を高める関連領域の科目群で構成しています。

特に、学内実習ではロールプレイを多く取り入れ、「人」との関わりを重視し、臨床での「リアルな場面」を再現しながら助産師としてのケア能力を高める学修を充実させています。

授業は、本学の助産学・産婦人科学を専門とする教員を中心に、関連分野の教員、道内の母子保健・周産期医療で活躍する講師陣が担当します。

【授業科目】 ※( )内は単位数

【基礎領域】	【実践領域】	【関連領域】
助産学概論(1)	助産診断とケア1(2)	親子保健指導(1)
周産期医学1(1)	助産診断とケア2(3)	子育て支援連携論(1)
周産期医学2(1)	助産診断とケア3(2)	助産学課題研究(1)
胎児・新生児学(1)	周産期統合ヘルスケア(1)	
リプロダクティブヘルス(1)	周産期ハイリスクケア(2)	
	健康教育論(1)	
	助産管理学(2)	
	助産学実習1(8)	
	助産学実習2(2)	
	助産学実習3(1)	

18科目、  
合計32単位  
(全て必修)

【修業年限】1年(定員15名)

【取得できる資格等】

- ・助産師国家試験受験資格
- ・受胎調節実地指導員申請資格
- ・新生児蘇生法(NCPR)専門コース(Aコース)修了認定資格



## 病院の理念



札幌医科大学附属病院は、患者さんに信頼、満足、安心していただける安全で質の高い医療を提供するとともに、高度な先端医療の研究・開発に取り組み、人間性豊かな優れた医療人の育成に努め、北海道の地域医療に貢献することを目的とします。

## 病院の概要



附属病院は、30診療科、922病床の施設を有し、高度救命救急医療、がん医療、再生医療等の高度・先端医療の提供を行っているとともに、遠隔地の多い本道における地域医療の発展や災害時の受け入れ医療機関として大きな役割を担っています。

平成8年、高度な医療の提供・医療技術の開発や研修等の実施能力を備えた特定機能病院として承認を受け、平成14年には重篤救急患者を受け入れ、高度・専門的な救急医療を行う北海道初の高度救命救急センターを設置、そのほか、エイズ治療拠点病院（北海道ブロック拠点病院）、災害拠点病院（基幹災害拠点病院）、北海道リハビリテーション支援センター、地域がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院などの機能を有しています。

新規がん治療である「がんワクチン療法」や脳梗塞、脊髄損傷に対する「神経再生医療」など独自の基礎研究に根ざした診療が国内外の関係者から注目を集めており、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」や心・脳血管X線撮影装置を有する「ハイブリッド手術室」などの最新医療設備や、遺伝子診断に関する「臨床遺伝外来」などにより最先端医療を展開しています。

また、大学附属病院として臨床教育と研究の中核的な機能を果たしており、各種医療職の育成、専門家への研修等により、優秀な人材を社会へ送り出しています。

## 診療科

消化器内科	小児科
免疫・リウマチ内科	眼科
循環器・腎臓・代謝内分泌内科	皮膚科
呼吸器・アレルギー内科	形成外科
腫瘍内科	泌尿器科
血液内科	耳鼻咽喉科
脳神経内科	神経精神科
消化器・総合、乳腺・内分泌外科	放射線治療科
心臓血管外科	放射線診断科
呼吸器外科	麻酔科
整形外科	総合診療科
脳神経外科	歯科口腔外科
神経再生医療科	リハビリテーション科
婦人科	遺伝子診療科
産科周産期科	感染症内科

## 中央診療部門等

病院課	医療連携福祉センター
医事経営管理部	栄養管理センター
薬剤部	臨床研修・医師キャリア支援センター
検査部	看護キャリア支援センター
病理部	医療情報部
放射線部	臨床研究支援センター
手術部	治験センター
医療材料部	脳機能センター
リハビリテーション部	消化器センター
高度救命救急センター	画像診断センター
集中治療部	
医療安全部	
感染制御部	
臨床工学部	
看護部	

ロビー



**がんゲノム医療**

私たちの身体を構成する細胞では、多くの遺伝子が働いており、遺伝子の働きに異常が生じると病気の原因になる場合があります。がんはその代表的な疾患です。がんゲノム医療とは、主にがんの組織を用いて、多数の遺伝子を同時に調べる(がん遺伝子パネル検査)ことにより、がんの特性を明らかにし、より効果が期待できる治療薬を探索する医療です。

当院はがんゲノム医療拠点病院として、年間約200例の検査を行うほか、道内の連携病院とオンラインで結んだエキスパートパネル(症例検討会)を毎週開催しています。

検査の結果から、効果が期待できる薬がある場合には、保険承認薬、臨床試験などからその薬の使用を検討します。また、検査の結果、患者さんが遺伝性腫瘍の体質を持っていることがわかる場合があります。こうした情報は患者さんだけでなく血縁者の方にも役立てることができます。遺伝子診療科では遺伝性腫瘍に関して正確な情報提供を行うほか、ご本人やご家族の疑問に答え、不安に寄り添う遺伝カウンセリングを行っています。

**【最新技術】手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)による手術**

ダ・ヴィンチでは、高解像度、高倍率の3D画像により患部の奥行きを鮮明にとらえることができるとともに、器具は自由に方向を変えることができ、手振れ除去機能もあるため、より繊細で正確な手術が可能です。

また、ロボット支援下手術は、低侵襲(痛み、出血等の患者の負担を少なくすること)手術を可能とし、回復が早い、傷跡が小さいなどのメリットがあります。

本院では、平成30年度の診療報酬改定により、前立腺がん、腎臓がんに加え、肺がんや胃全摘術、直腸切除、子宮体がんなどが新たに保険適用とされたことから、現在は、泌尿器科、消化器・総合、乳腺・内分泌外科、呼吸器外科、耳鼻咽喉科、婦人科において、手術支援ロボットを使った手術を施行しています。

手術支援ロボットを使用した手術件数実績は次のとおり。

診療科	R2	R3	R4
泌尿器科	79	79	61
消化器・総合、乳腺・内分泌外科	95	84	162
呼吸器外科	58	68	60
耳鼻咽喉科	—	—	2
婦人科	51	73	69
合 計	283	304	354

**脊髄損傷患者に対する神経再生医療**

令和元年5月13日から、本学附属病院において、脊髄損傷患者に対する神経再生医療が始まりました。

これは、神経再生医療学部門の本望教授・整形外科の山下教授(現:理事長・学長)らが中心となり、長年にわたって取り組んできた臨床研究の成果が実用化されたものであり、国内外から注目を集めています。

・治療の流れは次のとおりです。

①本院への転入院

受入れの対象となるのは、急性期(受傷直後)の脊髄損傷患者です。

②検査によるスクリーニング

検査を行い、患者の状態が治療の条件に適合しているか、確認します。検査結果により、治療の対象とならない場合があります。

③骨髄、血液の採取

ステミラック注は、患者の骨髄に含まれる間葉系幹細胞を培養することにより製造する再生医療等製品です。

使用する培養液中には患者自身の血清を用いるため、血液を採取します。

④間葉系幹細胞の培養

細胞培養は、ニプロにおいて、③で採取した間葉系幹細胞を2~3週間かけて、およそ1万倍(1億個)に培養します。その後、安全性試験、品質試験を経て最終的に製品化されます。

⑤再生医療等製品(ステミラック注)の投与

患者への投与は、末梢静脈内に60分程度かけて点滴静注を行います。

⑥リハビリテーション

再生医療製品の投与前後には、本院にて、リハビリテーションを行います。

また、連携病院に転院した後、本格的なリハビリテーションを行います。



ハイブリッド手術室



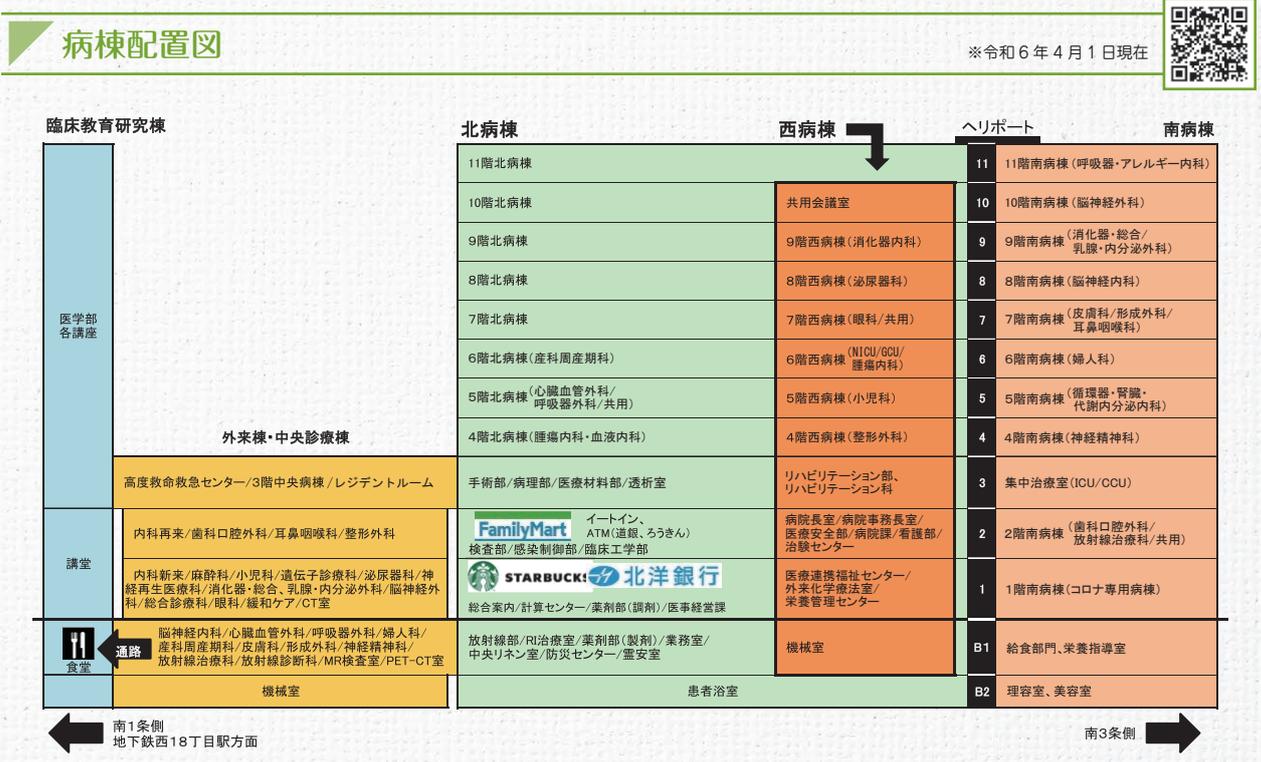
手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」



ロボット支援前立腺全摘術の手術風景



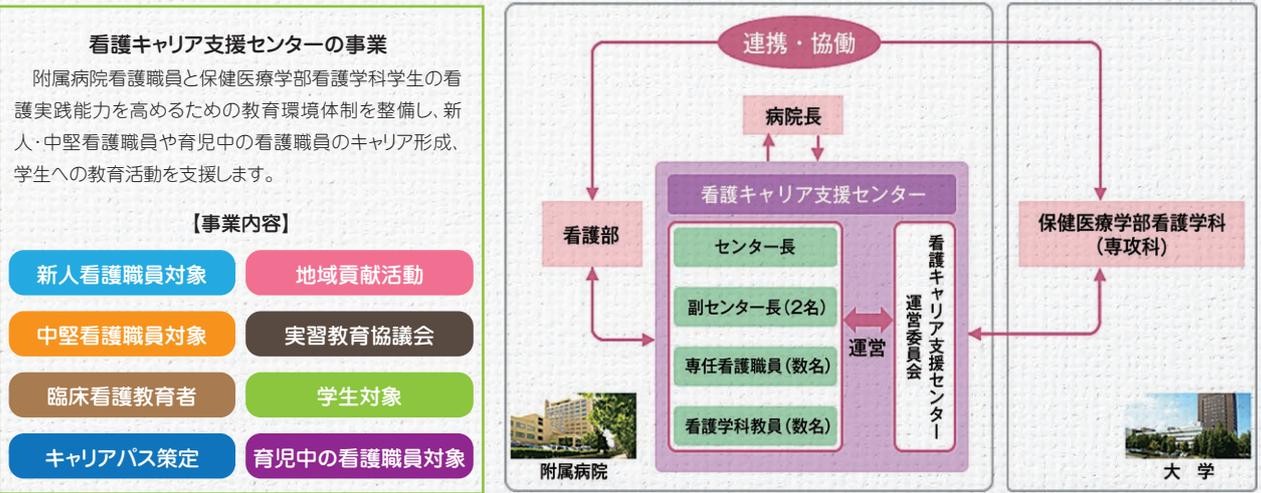
ヘリポート



### 看護キャリア支援センター

看護キャリア支援センターは、平成26年4月に札幌医科大学附属病院看護部と札幌医科大学保健医療学部看護学科および専攻科の連携・協働と人的交流の推進のもと、看護実践・教育の質向上を図るため、看護職員と学生に対するキャリア形成支援と看護学科教育研究相互協力、さらに地方病院の新人看護職員や中堅看護職員に対する研修等での地域貢献活動の中核として機能することを目的としています。

■看護キャリア支援センターの概要図



## 附属病院の改修について

現在、札幌医科大学では、附属病院の療養環境の向上や診療機能の充実を図り、安心・安全で質の高い医療の提供に努めるため、増築を含めた施設の改修を進めています。

平成30年7月には、病室の4床化や個室の拡充、外来化学療法室、治験センター、リハビリテーション施設などを移転・拡充した新病棟（西病棟）の運用を開始したところです。

引き続き平成31年1月から既存施設の改修を順次進めており、病室の4床化などによる療養環境の向上や高度救命救急センター、手術及び集中治療部門など診療機能の充実を図り、令和6年度中の完了を予定しています。



外来化学療法室



治験センター

## 基幹災害拠点病院

当院は広大な面積を有する北海道において、平成9年に道内唯一の基幹災害拠点病院として位置付けられ、災害時に多発する重篤救急患者への高度な診療機能や、広域搬送の対応、医療救護班の派遣など、災害時に必要な医療支援を行うための災害拠点病院（当院以外33施設）の中心的役割を担っています。

救急医療施設として、集団災害（多数傷病者発生）に対応するための準備体制の維持、災害発生時における医療スタッフの現地派遣（DMAT、国際緊急援助隊）や被災患者の収容に対応するため、定期的に広域災害・救急医療情報システムを活用した訓練等を行っています。

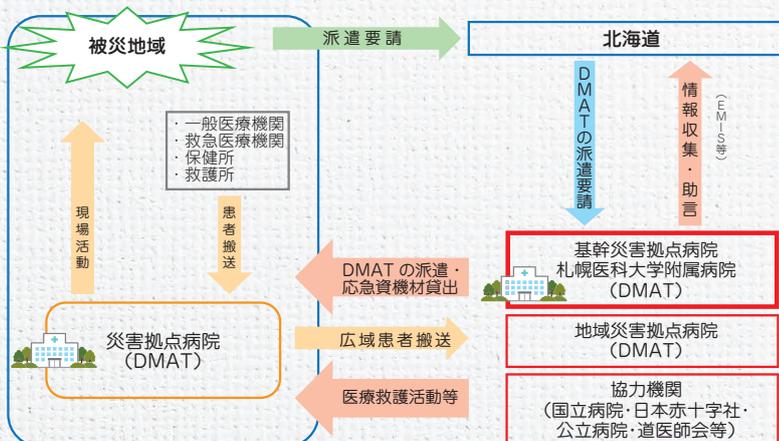
東日本大震災（平成23年3月）、熊本地震（平成28年4月）、北海道胆振東部地震（平成30年9月）、能登半島地震（令和6年1月）など道内外で発生した大規模災害の際には、当院からDMATなどの救護班を派遣しました。

【能登半島地震派遣活動の様子】



### 災害医療連携体制

<p>●災害時の医療機能（急性期）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基幹災害拠点病院【札幌医科大学附属病院】</li> <li>・地域災害拠点病院【各第二次医療圏に33施設】</li> <li>・DMAT指定医療機関【全道に34施設】</li> </ul>	<p>※災害拠点病院の機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・傷病者等の受入・搬出等、広域搬送対応</li> <li>・応急資機材の貸出機能</li> <li>・DMATの派遣機能など</li> </ul>
<p>●広域患者搬送</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消防防災ヘリ【道防災航空室、札幌市消防局、自衛隊、海上保安庁、北海道警察】</li> <li>・ドクターヘリ【道央、道北、道東、道南】</li> </ul>	



札幌医科大学では、災害医療対策訓練の実施にあわせて、平成29年度から災害時の初期治療、災害を受けた人に対する精神的サポートを含めた「講義」と「実習」の両面から災害教育を実施しています。

## 学生部

学生部は、学生が安心して大学生活を送れるよう、学生生活全般に関して検討を行う組織です。学生部においては、月に一度、学生部教員、医学部・保健医療学部の教務委員長、及び学校医を構成員とする「学生委員会」を開催しており、授業料の減免申請や本学独自の奨学金の採用等、修学支援に関する審議を行う他、学生支援制度や体制に関する検証を行っています。

また、学生会をはじめ、各種サークル団体に対して、飲酒等による事故・トラブルや特殊感染症の拡大の防止などに向けた指導・助言を行うとともに、学生部教員が学部・学科・学年ごとに行う「学生部講話」を企画・実施する等、医療専門職を目指す学生に求められる倫理観の醸成に向けた取組も行っています。

平成26年度からは、学生委員会委員及び学生担当教員が学生の代表者から学生の意見・要望等を聴き、学習環境の充実に向け学生とともに検討する「学生支援会議」を開催し、学生支援体制の更なる充実にに向けた取組を行っています。

## 保健管理センター

札幌医科大学保健管理センターは、本学の学生・教職員に係る保健管理を専門的に担当し、積極的に心身全般にわたる健康の保持増進を図っており、医師、保健師、看護師及び公認心理師が相談をはじめ、健康管理に関する業務にあたっています。

保健管理センターには、保健管理を行う「保健室」と「相談室」があり、保健室では、ケガや病気などの応急対応、感染症予防対策等を実施し、健康面の不安、悩みについても随時相談に応じています。

また、相談室では、大学生活や勤務等において生じる様々な悩みや困り事に対して、専任の公認心理師による相談支援を行っています。



保健管理センター（相談室）



保健管理センター（保健室）

## 国際交流部

札幌医科大学の国際交流は、国際交流委員会及び国際交流部を中心とした組織によって推進されています。学長の諮問機関である国際交流委員会では、学内の国際交流に関する基本事項について審議します。また、国際交流部は、国際交流に関する事務の実施部門として位置づけられています。



JICA研修員との交流



カナダ・アルバータ大学での語学研修



医学部4年 島田陽二郎さんと高橋怜央さんが第6回高麗大学国際医学生研究発表会に参加しました



## 国際交流



## 国際医学交流

札幌医科大学では、次の国際交流方針に基づき、フィンランド、カナダ、中国、アメリカ、韓国の大学と交流協定を結び、積極的に学術・学生交流を進めています。

## 【札幌医科大学国際交流方針】

## 1. 人材育成

グローバルな視野と国際感覚を有し、わが国および世界の医療と医学・保健医療学の発展に寄与する人材を育成する。

## 2. 研究・医療の国際化

海外の大学・研究施設との交流・連携を通して、国際的に高く評価される医学・保健医療学研究と先進的医療の推進を図る。

## 3. 国際貢献

本学の高度な医療技術や知識を活用し、海外の医療機関・医学教育機関との交流を通じて、世界の医療や医学・保健医療学のレベル向上に貢献する。



## 【提携大学との交流開始年度】

1977 — フィンランド5大学(ヘルシンキ、トゥルク、オウル、タンペレ、東フィンランド大学)ほか	2011 — 韓国カトリック大学
1983 — カナダアルバータ大学	2019 — 韓国高麗大学
1984 — 中国医科大学	2020 — 米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校
1994 — 米国マサチューセッツ州立大学医学部	
2008 — 中国佳木斯大学	

## 国際貢献

世界の人々の健康と福祉における水準の向上を目指して、発展途上国等への本学研究者の派遣、海外からの研究員の受入等を積極的に進めています。

関係諸機関の要請に基づき、大規模災害被災地へ積極的に教員を派遣しています。また、独立行政法人国際協力機構(JICA)の委託により、中南米からの日系研修員の受入を行うなどの取組を行っています。



## 附属総合情報センター

### 図書館部門

図書館は基礎医学研究棟の2階から4階にあり、学内所属員には、年末年始を除いて24時間開館を提供しており、時間を問わず学習や研究をサポートする環境整備を行っています。

館内は、グループで相談しながら学習できるスペースや静かに集中して学習できる席等、用途に合わせた閲覧席があり、セミナー室や研究個室といった予約制の部屋も用意しています。各階にパソコンを設置している他、貸出用ノートパソコンもあり、無線LANにより私有パソコンの利用にも快適な環境を提供しています。

また、学内所属員が自宅など学外からも利用可能な国内外の電子ジャーナルや電子ブック、電子辞書といったオンラインコンテンツの整備にも努めています。

本学の建学の精神のもと、地域医療への貢献の一環として卒業生を含めた道内在住の医療従事者を対象に文献複写サービス等の情報提供についても積極的に行っています。



出入口



個人閲覧席

### 情報システム部門

情報システム部門は、平成11年4月に設立された情報センターを前身としており、教育研究活動の支援や北海道の地域医療への貢献のために情報技術の効果的な活用を促進することを目的としています。

このような目的のもと、情報システム部門では次のような取組を行っています。

- (1) 情報システムの整備及び運用への支援
- (2) 情報セキュリティ対策及び学内における啓発活動の実施
- (3) 学術文献の評価ツール、データ分析ソフトウェアなどの導入を通じた研究活動への支援
- (4) 講義や自習に利用されるコンピューター実習室、自由にアクセス可能なネットワークをはじめとした教育環境の提供を通じた教育活動への支援
- (5) 遠隔地から利用可能な医療情報データベースやテレビ会議システムなどの導入を通じた、地域医療に携わる医師への支援

情報システム部門では、今なお世界中で急速な進化を遂げているICTに関する情報を収集し続け、大学に必要とされる最新のICTの姿をこれからも探求してまいります。



学生コンピューター実習室(基礎医学研究棟5階)



学生コンピューター実習室(保健医療学研究棟1階)



附属産学・地域連携センター



研究部門

研究部門では、大学の社会貢献を目指した諸活動の窓口として、研究に係る外部資金獲得を支援しています。研究費獲得のための学内研究者支援のほか、他大学・機関及び地域と連携し、教育研究・産学連携を推進しています。



本学の研究シーズを各所で展示・発表



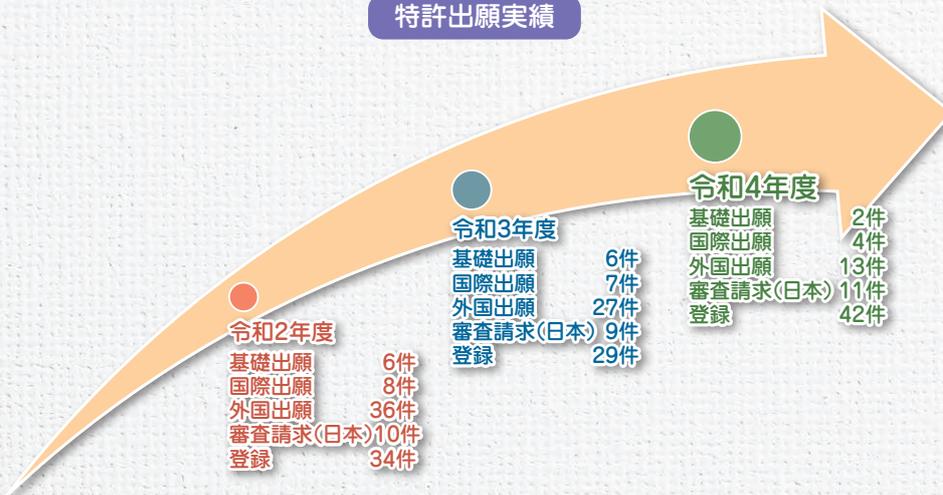
開発部門

開発部門では、本学の研究成果を特許等として適切に権利化し、管理しています。また、特許取得から実用化に向けた研究戦略についての相談に随時対応しているほか、企業との連携の仲介や必要な各種契約(共同研究、受託研究、秘密保持契約、研究成果有体物に係る契約等)の締結、開発研究費取得等を支援しています。

【知財教育】

大学院生をはじめとする医学研究者や医療従事者を対象とした知財教育講義を実施しています。受講者の多様なニーズ・意欲に対応し、産学連携のあり方や医薬品の開発と研究・知的財産との関連など、幅広い内容となっています。

特許出願実績



## 寄附講座



寄附講座は、産学連携の推進や奨学を目的とする企業などからの寄附金を基に、本学の学術研究活動の進展と充実を目的として設置されるもので、令和6年4月現在、5講座が設置運営されています。

## アイン・ニトリ緩和医療学・支持療法学講座

アイン・ニトリ緩和医療学・支持療法学講座は、平成25年4月に株式会社アインファーマシー(平成25年11月より株式会社アインホールディングス)及び株式会社ニトリを寄附者として設置されました。

緩和医療・ケアにおける多職種連携によるチーム医療の普及と発展を推進するため、緩和医療に携わる医療者の人材育成、患者・家族、一般市民への啓発活動を行うとともに、平成25年3月まで緩和医療学講座が行ってきた「がん相談サロン」をより強化しています。さらに、附属病院腫瘍センター内がん診療相談室とも連携を深め、有機的な情報共有を図り、がん患者・家族の全人的な苦痛・苦悩にアプローチしていく臨床研究を推進していきます。

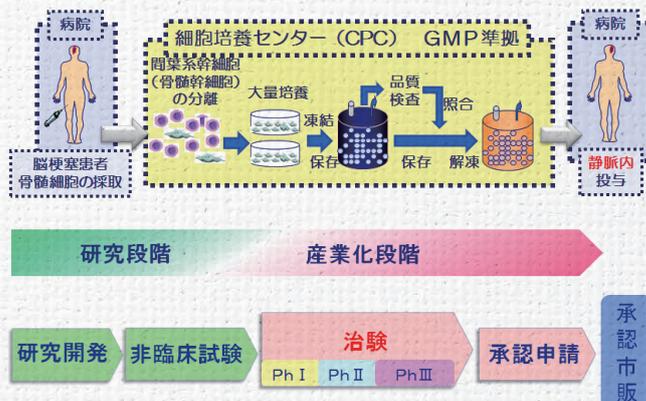


一般市民向け学習会の様子

## 再生治療推進講座

再生治療推進講座は、平成26年2月にニプロ株式会社を寄附者として設置されました。

本寄附講座は、自己骨髄細胞を利用した脳梗塞、脊髄損傷、ALS、脳卒中、頭部外傷、認知症等の再生医療の治験の実用化を目的としています。このため、製造設備や資材の開発、品質検査方法の確立など、様々な技術開発を行っています。



## 北海道病院前・航空・災害医学講座

北海道病院前・航空・災害医学講座は、平成28年4月に設置されました。

本寄附講座の研究等の目的は次のとおりです。

- ・ 北海道の病院前救護を研究するとともに、救急救命士等救急隊員の教育プログラムを開発し、病院前救護の高度化に貢献すること
- ・ 広大で医療資源の偏在が著しい北海道の航空医療体制の確立を図るための研究、並びに救急搬送ヘリコプターの運用、航空医療搬送関係機関の連携体制及び医療優先固定翼機の導入及び運用に関する研究を行うこと
- ・ 北海道の災害医療を研究するとともに、災害医療従事者の教育プログラムを開発し、災害発生時に効果的に活動できる医療体制確立に貢献すること

## 運動器抗加齢医学講座

急速に超高齢社会となった本邦では、骨粗鬆症や変形性関節症など加齢に伴う運動器疾患患者は増加の一途にあります。運動器抗加齢医学講座は、加齢性運動器疾患の病態解明や新規治療法の開発を目的に、令和4年4月に設置されました。

運動器の障害による日常生活能力の低下は、要介護となる最大の原因となっています。そのため、運動器疾患による障害を予防・治療することは、自立した生活を確立するために非常に重要となります。本講座では、北海道内の医療機関と連携した疫学研究を行い、運動器疾患の治療の現状と問題点を調査します。

さらに、その結果に基づき、有効な予防法や治療法の開発に取り組みます。

また、病態の解明を目的に、動物モデルやヒト末固定または固定標本を用いた基礎研究を進めます。そして、これらの本講座で得られた新しい知見をさらに臨床に応用することで、加齢に伴う運動器の障害に対する新しい治療法の確立を目指します。



### 炎症性腸疾患遠隔医療講座

炎症性腸疾患(IBD)は、本邦では約29万人の患者がいると推定されており、若年での発症が多く長期にわたる治療が必要です。道内のIBD専門医はまだ少なく、専門性の高い医療を受けるために患者さんは遠方からでも専門施設へ通院しています。当講座は遠隔医療に注目し、広大な北海道の地で、場所を選ばず適切な治療が受けられるよう、①IBD診療に携わる医師及びメディカルスタッフへの教育を推進し、研修等の主導的な役割を果たすこと、②IBD診療の均てん化を図ることを目的とし設立されました。高度医療施設の医師に対し、中核病院の患者と医師がインターネット上で受診が可能となり、遠方から受診が必要であった患者さんの負担軽減や、地方勤務の若い医師のIBD診療教育の充実が期待されます。

当講座の取り組みは、「北海道炎症性腸疾患患者医療均一化を目指した遠隔医療体制の確立」として、内閣官房が主催する令和4年度冬のDigi田甲子園で入賞、2023年3月9日に首相官邸で表彰されました。また2023年9月24日UHB放送「松本裕子の病を知る」でも取り上げられ、その活動が注目されています。



### 特設講座



特設講座は、寄附金以外の外部資金または競争的資金を基に、本学の学術研究活動の進展と充実を目的として設置されるもので、令和6年4月現在、2講座が設置運営されています。

### 南檜山地域医療教育学講座

令和3年4月発足。南檜山地区をリソースとする地域医療教育、医師の偏在、病診連携ならびに遠隔診療の確立に関する調査・研究を行うこととし、

- (1) 地域医療を担う医学生／医師に対する医療知識・技能・態度の教授手法の研究
- (2) カリキュラムマップⅦ。地域医療の5つのコンピテンシーに則り、教育のアウトカムを設定し、その教授手法の研究
- (3) 本講座の教員が地域医療研究教育センターに兼務で参加し、南檜山メディカルネットワークにて実施される医療機関の機能分化／連携についての研究
- (4) 南檜山メディカルネットワークの医療情報を整理活用し、離島／へき地にて医療・研究に従事する医師が継続的に存在する条件の検証などの取り組みを実施しています。



江差病院付近から見た日本海の夕日



道立江差病院の外観

### 消化器先端内視鏡学講座

消化器先端内視鏡学講座は、令和5年4月に設置されました。

江別市(江別市立病院)と札幌医科大学消化器内科学講座が共同で研究をおこない、内視鏡デジタル遠隔診療構想の実装と、内視鏡医師の育成、消化器疾患の新規治療法の開発を目指しています。

具体的な研究内容は次のとおりです。

- (1) 江別・南空知地区(都市近郊及びその周辺地区)における地域医療の現状を研究リソースとして、遠隔医療を活用した内視鏡臨床(教育)システムの確立、広域医療連携システムの構築に関する調査・研究
- (2) 内視鏡下生検、内視鏡治療によって得られたサンプルを分子生物学的に解析、低侵襲内視鏡治療を含めた先進的消化器疾患治療法の推進・開発

今後、北海道の消化器がん患者さんがどこにいても早期発見が可能となり早期治療が可能となるよう、これらの遠隔治療を用いた内視鏡システムの構築・実装を進めます。



## 臨床研究活動・最新医療

## 脳梗塞と脊髄損傷の再生医療(医師主導治験)

札幌医科大学では、平成2年から脳梗塞や脊髄損傷の動物モデルに対して各種幹細胞をドナーとした移植実験を繰り返して行い、中でも骨髄間葉系幹細胞を有用なドナー細胞として注目し、経静脈的に投与することで著明な治療効果が得られるという基礎研究結果を多数報告してきました。

この基礎研究結果に基づき、平成9年から脳梗塞患者に対して、自己血清を使用して培養した自家骨髄間葉系幹細胞の経静脈的投与の臨床研究を行い、その治療効果と安全性を検証してきました。平成25年11月から、自家骨髄間葉系幹細胞を薬機法下で一般医療化すべく、医師主導治験を実施し、医薬品(再生医療等製品)として実用化することを試みました。本治験薬の品質および安全性については、医薬品医療機器総合機構(PMDA)と相談しながら前臨床試験(GLP, non-GLP)を実施し、また、札幌医科大学のCPC(細胞プロセッシング施設)でGMP製造しました。治験薬の成分は「自家骨髄間葉系幹細胞(剤型コード:注射剤C1)」。

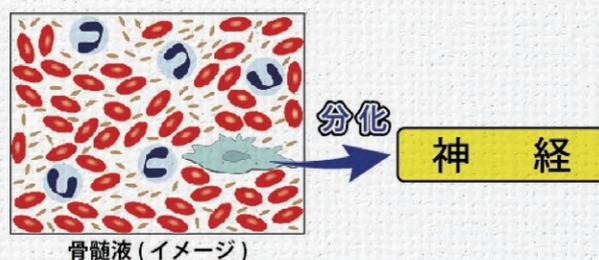
製造方法は「培養(患者本人から採取した骨髄液中の間葉系幹細胞を、自己血清を用いて培養したもの)」。

脳梗塞については、平成25年2月に治験届を提出し、医師主導治験(第3相)を実施中です。一方、脊髄損傷においては、平成25年11月から平成29年2月まで医師主導治験を実施しました。平成28年2月には厚生労働省の「先駆け審査指定制度」の対象品目として指定され、平成30年6月に治験の結果を元に、共同研究者であるニプロ(株)が「再生医療等製品」として製造販売承認申請を行い、平成30年12月28日、脊髄損傷に対する条件及び期限付承認を取得。再生医療等製品「ステミラック注」として保険適用を受けました。現在、本承認を目指し、本学附属病院において、「ステミラック注」を用いた脊髄損傷の再生医療を実施しております。

## 骨髄間葉系幹細胞とは?

骨髄間葉系幹細胞 mesenchymal stem cell(MSC)は、骨髄液に含まれる骨髄細胞のうち0.1%程度含まれる、内臓、血管系、骨・軟骨、脂肪、筋肉、さらに神経へ分化が可能な細胞です。

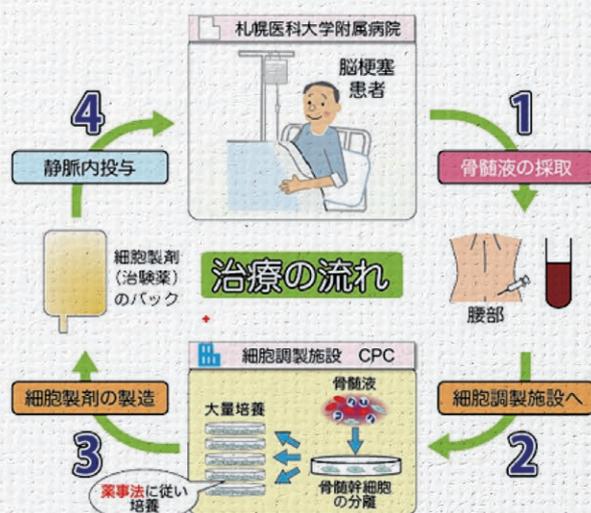
細胞表面抗原マーカーによる検証では、CD34(-)、CD45(-)、CD73(+)、CD105(+))であり、in vitroの培養においてプラスチックに付着する扁平・紡錘状の直径10μm程度の細胞です。



## 自家骨髄間葉系幹細胞による治療

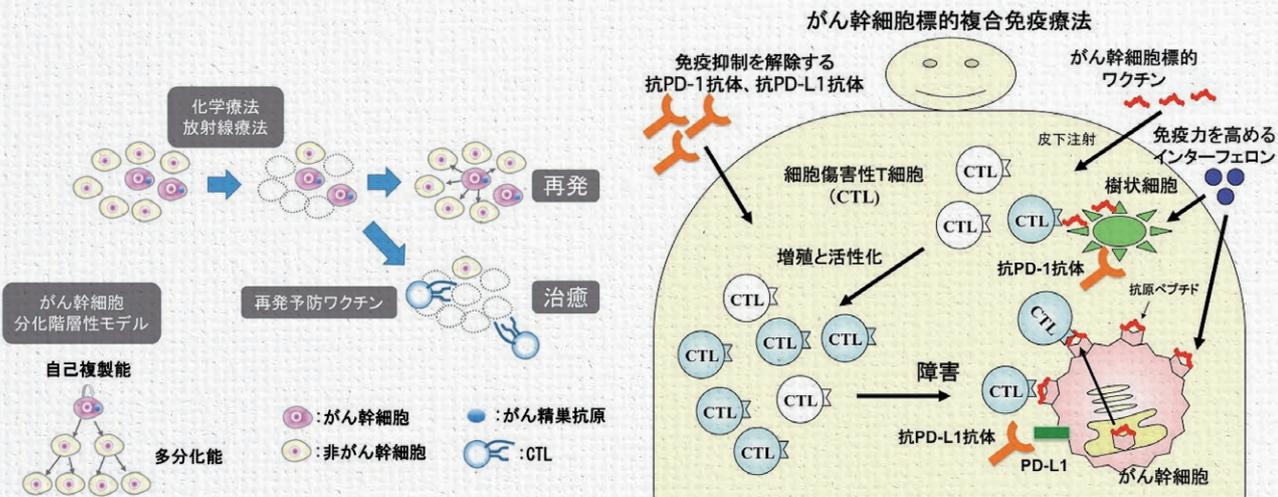
## 【治療の流れ】

- ① 脳梗塞患者の腸骨から局所麻酔下で骨髄液を採取
- ② これを細胞調製施設(CPC)にて目的の細胞を分離し、約2週間で約1万倍に培養
- ③ 約1億個の細胞を40mlのバッグに封入し細胞製剤を製造
- ④ この細胞製剤を30分~1時間かけて一回静脈内投与



がん幹細胞標的免疫療法

日本人の3人に1人はがんで亡くなります。現在のがん治療は①手術療法、②抗がん剤と分子標的療法、③放射線療法が3大標準治療になりますが、近年第4の標準治療として免疫療法が確立されつつあります。しかし、免疫療法が効果を発揮するのは2割程度の進行がんに限られ、多くのがんでは効果が不十分であることが問題となっています。また、免疫システムの本来の機能は、病気を未然に防ぐことにありますが、現在の免疫療法ではがん予防効果は期待できません。私たちはこれらの問題を克服するために、がん幹細胞標的免疫療法の研究開発を進めています。がん組織をハチの巣にととえ、近年「がん幹細胞」とよばれる女王バチに相当する悪玉細胞の存在が明らかになってきました。女王バチ細胞は長寿命で、自己複製能力や働きバチ産生能力を持ち、さらに抗がん剤や放射線療法に耐性をもっているため、がんの再発や転移の主犯細胞と考えられています。私たちは、女王バチ細胞の免疫病理学的特徴を解明し、もともと生まれ持っている免疫力を使ってがんを治療し、再発・転移を予防できるような「がん免疫療法」の研究を行っています。



標本館

標本館は、館長ほか2名の専門職員を置き、医学・生物学的標本及び関連資料を総合的に収集・保存・製作、それらを系統的に展示し、本学の教育・研究に資することを目的として、昭和47年4月に設置しました。

標本館が所蔵する人体の標本は、解剖学・病理学・法医学など様々な医学の領域に及び、マクロ・ミクロのスライドの豊富なことも大きな特徴のひとつで、所蔵する標本の総数は4万5000点を超える本学が全国に誇る施設です。

近年、医療教育機関が増加したことに伴い、これらの生徒に対しても見学実習のための利用に応じています。



標本館入り口

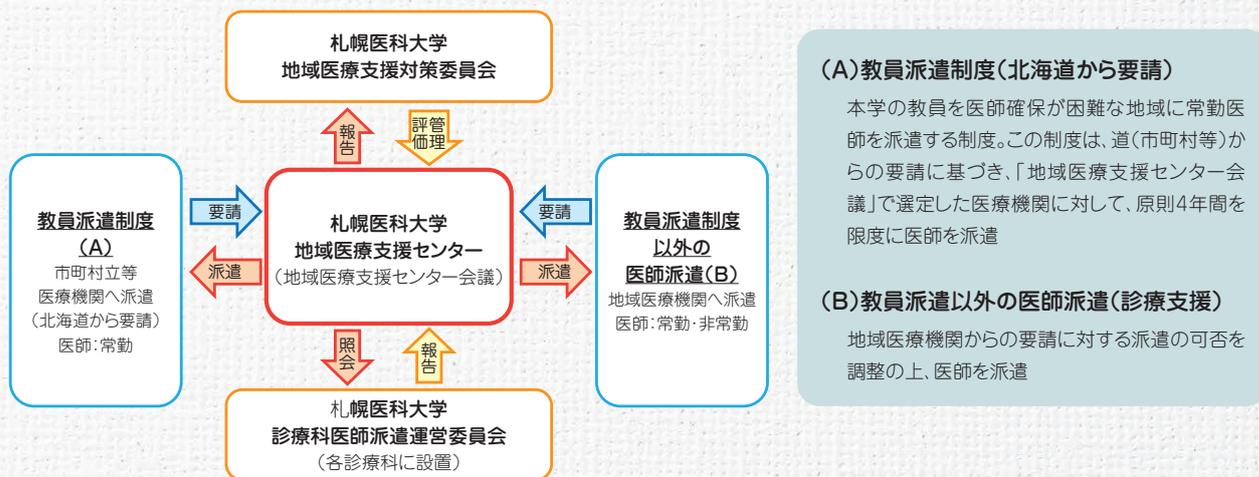
## 社会貢献

## 医師派遣



札幌医科大学では、本道の地域医療提供体制の確保に向け積極的な役割を果たすため、道、関係医療機関等との連携を強め、道立病院をはじめとする地域の公的医療機関等への医師の派遣を行っています。

また、平成21年度から、緊急的な医師派遣要請や地域医療機関からの診療支援要請に、迅速かつ円滑に対応するため、本学の医師派遣機能を一元化し、「札幌医科大学地域医療支援対策委員会」の下に「札幌医科大学地域医療支援センター」を設置し、積極的に医師派遣に取り組んでいます。



## 保健医療学部における地域貢献活動



札幌医科大学は、道民のニーズによって設立され、北海道の地域医療を牽引する役割を担っています。建学の精神である「地域医療への貢献」のもと、保健医療学部においても卒業生の道内への定着や地域に貢献する医療人の育成など、北海道の保健・医療を支える人材輩出のみならず、種々の社会連携・地域貢献によって道民の皆さまのニーズに応え、保健・医療・福祉の向上のため努力しています。

## 保健医療学部は、以下の考え方に基づき、社会連携・地域貢献を行っています。

地域社会との連携・共同、住民との交流を通して、保健医療学部の教育・研究の成果を道民に還元することにより、地域の保健医療環境の充実と発展、道民の健康水準の向上に寄与する。

- ◆日々の研究成果を地域社会に還元するため、地域社会との連携・協働をはかり、道民の健康増進に向けた取り組みを行います。
- ◆地域住民を対象とする公開講座・講師派遣を通して、健康に関わる生涯教育の機会を提供します。
- ◆地域医療を担う卒業生に対する支援を含め、北海道の医療を支える看護職・理学療法士・作業療法士等医療職の実践能力向上に取り組むことにより、保健医療に携わる人材の育成に努めます。
- ◆教員、及び学生の社会連携・地域貢献を支援するとともに、地域貢献活動に関する情報発信を積極的に行い、地域社会との連携を深めます。

## 主な活動内容

## 《生涯学習支援》

- ・公開講座
- ・高校出前講座
- ・中高生の大学訪問受入れ

## 《健康増進支援》

- ・健康増進に関わる各種活動

## 《専門職人材育成支援》

- ・北海道の看護職を対象とした地域貢献活動
- ・PT、OT学科主催のリハ職対象リカレント教育

## 《卒業生キャリア支援》

- ・研修会、セミナー、交流会等の開催

民間企業との包括連携協定



札幌医科大学では、産学の連携を通じて相互の発展に寄与するとともに、北海道の保健・医療・福祉の向上など、地域医療への貢献を目的に平成18年度から道内民間企業と包括連携事業を締結しています。現在では、11企業と協定を締結しており、今後も更なる教育・研究・臨床の向上、北海道の地域医療への寄与を目指して、連携協定先と共に様々な活動に積極的に取り組んでいます。

包括連携協定先企業名	協定締結年月日	主な活動
株式会社北海道新聞社 <b>北海道新聞社</b>	平成18(2006)年 8月	●「すこやかライフ講座」の開催 <地方開催:旭川市、小樽市、帯広市/札幌開催:札幌市(年3回)> ※令和元年度 ●紙面企画「道民目線のコロナ対策」を不定期連載 ※令和2年度～
株式会社北洋銀行 <b>北洋銀行</b>	平成20(2008)年 6月	●「医の力～札幌医科大学 最前線～道民医療講座」の開催(札幌市) ※令和5年度 ●札幌医大への遺贈希望者に対するコンサルテーションの実施 ※令和3年度～
株式会社ハーバー研究所 <b>HABA</b> HEALTH AID BEAUTY AID	平成24(2012)年11月	●附属病院入院患者へのメイクアップサービス ※平成24～29年度
株式会社ホリ <b>HORI</b> CONFECTIONERY	平成25(2013)年 5月	●附属病院入院患者へのゼリーの寄附 ●「食育セミナー 竹下景子トークイベント「おいしさがつなぐもの」の開催(札幌市) ※令和元年度 ●「クリスマスツリー点灯式・寄附贈呈式」の開催(札幌市) ※令和元年度 ●おいしくて体に良い商品「ホリのやさしいおいしさプラスショコラ」(令和3年1月発売)、「ホリやさしいおいしさ 北海道しそハスカップゼリー」(平成27年4月発売、令和4年3月販売終了)、「ホリやさしいおいしさ 北海道しそハスカップグミ」(平成29年12月発売)を共同開発。
大地みらい信用金庫 <b>大地みらい 信用金庫</b>	平成25(2013)年 6月	●「標津メディカルカフェ」の開催(標津町) ※令和5年度 ●「大地みらい移動医科大学」の開催 ※令和5年度
留萌信用金庫 <b>留萌信用金庫</b>	平成25(2013)年 6月	●「メディカルカフェ」(オンライン)の開催(留萌市) ※令和3年度
十勝毎日新聞社 <b>十勝毎日新聞社</b>	平成26(2014)年 5月	●「医療セミナー」の開催 ※令和5年度 ●定期連載「札幌医大の研究室から」紙面及びWeb掲載
稚内信用金庫 <b>稚内しんきん</b>	平成26(2014)年 7月	●「メディカルカフェ」(オンライン)の開催(利尻町) ※令和3年度
北海道中央バス株式会社 <b>中央バス</b>	平成26(2014)年 8月	●「健康管理講演会」の開催(札幌市) ※令和5年度
北海道コカ・コーラボトリング株式会社 <b>Coca-Cola</b>	平成30(2018)年10月	●「こころからだ うるおいアカデミー」の開催(札幌市) ※令和5年度
北海道テレビ放送株式会社 <b>HTB</b>	令和2(2020)年 2月	●HTB「Biz.com北海道」において開学70周年を迎える札幌医科大学の紹介番組の放送 ※令和元年度 ●医TVにおいて「北海道から世界に向けて」と題した番組の放送 ※令和4年度

【主な連携協定先との事業】

●北洋銀行

令和5年度は「医の力～札幌医科大学最前線～道民医療講座」を4年ぶりに対面開催し、医学部循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座の高橋真人教授が「今からでも遅くない!血管の老化(動脈硬化)の予防と生活習慣」をテーマに講演を行いました。



●十勝毎日新聞社

かちまい・札幌大医療セミナーとして、令和5年9月に「更年期から始まる女性の病気」、10月に「認知症と聞こえのはなし」を開催しました。このほか、十勝毎日新聞の教育面にて、本学教員にスポットを当て、中高生の進路選択に役立てるための記事を定期的に紹介しています。



●HORI

本学と株式会社ホリとの共同開発商品「ホリのやさしいおいしさプラスショコラ」の発売を令和3年1月から開始しました。本学と株式会社ホリとの共同開発商品は「ホリやさしいおいしさ北海道しそハスカップゼリー」(平成27年4月発売、令和4年3月販売終了)、「ホリやさしいおいしさ北海道しそハスカップグミ」(平成29年12月発売)に続き、3つめとなります。



## 札幌医科大学のキャンパスが完成しました



札幌医科大学では時代の変化に応じた質の高い教育環境や学生が自主的に勉学できる環境、研究機能等の充実や学生の交流の場となるオープンスペースの確保などのため、新たな大学施設の整備を進めました。



大学側写真



病院側写真



街区概要(施設整備後イメージ図)

平成25年度から行っている大学施設の整備については、平成26年11月に体育館・リハビリテーション実習施設の工事完了をはじめに、平成29年3月に保健医療学研究棟の増築工事、12月に講義室や研究室などが入る教育研究棟の第一期工事が完了し、平成31年3月には演習室や実習室などが入る保健医療学研究棟の既存部分の改修工事を完了しました。

また、令和3年3月に教育研究棟の第二期工事及び事務局や動物実験施設などが入る大学管理棟の工事が完了、令和3年度にはこれまで利用していた既存施設の解体を完了し、令和4年度に新キャンパス広場「らてす」を整備し、緑豊かな憩いの空間として大学キャンパスの充実を図りました。

一方、附属病院では、北病棟西側において進めていた新病棟(西病棟)の増築工事が平成30年3月に完了しました。引き続き、平成31年1月から既存施設の改修を順次進めており、病室の4床化などによる療養環境の向上や高度救命救急センター、手術室及び集中治療部門など診療機能の充実を図り、令和6年度中の完了を予定しております。

※ 各イメージ図は、設計段階のものです。

## 完成施設

## ■ 体育館・リハビリテーション実習施設、保育所(平成26年11月完成)

主に学生が体育授業や部活動で使用する競技場やトレーニング室、武道場、弓道場からなる体育館と理学療法や作業療法の教育研究活動を行うリハビリテーション実習施設、教職員等の子どもが利用する保育所が集まった複合施設です。



体育館



運動実習施設

## ■ 保健医療学研究棟増築(平成29年3月完成)、既存部分改修(平成31年3月完成)

旧保健医療学部棟を増築し、既存部分と合わせて保健医療学研究棟として新たに生まれ変わりました。

増築部分に教員室、研究室を移転し、既存部分に実習室や演習室を拡充、ナースングシミュレーションラボの新設などの改修を行っています。



建物外観



エレベーターホール

## ■ 教育研究棟 第1期工事(平成29年12月完成)、第2期工事(令和3年3月完成)、大学管理棟(令和3年3月完成)

教育研究棟は、低層階に開放的なアトリウム空間を挟み学生の活動の場となる講義室や実習室を配置、高層階に演習室や教員室、研究室等を配置し、2期に分けて整備をすすめ第1期工事は平成29年12月、第2期工事は令和3年3月に完了しました。

教育研究棟には、この整備により約250名が受講できる共用講義室などの講義室(12室)、解剖実習室などの実習室(5室)及び演習室(34室)などを整備しています。

また、大学管理棟には、動物実験環境の充実を図る実験施設を整備したほか、大学事務局を集約し大学運営における連携が図れるよう整備しています。



建物外観



アトリウム



共用講義室



実習室

## ■ 附属病院西病棟(平成30年3月完成)

附属病院の増築棟となる西病棟には、既存棟の改修に先駆けて病室の4床化及び個室の拡充を行い療養環境の向上を図ったほか、外来化学療法室、治験センター、リハビリテーション施設などを移転・拡充しています。



建物外観



新生児集中治療管理室(NICU)

## キャンパス広場「らてす」



令和4年度の新キャンパス落成を節目に、地域の方々からより親しみを感じていただき、かつ、本学の学生、教職員、卒業生等に愛着と誇りを感じていただけるような『広場』となるように、札幌医科大学初の試みとして、北海道在住の方を対象に愛称を公募し、「らてす」に決定しました。

大学と附属病院を繋ぐエリアに位置するキャンパスの『広場』は、ライラックに似た白色の花を咲かせる「ハシドイ」と、濃い桃色の花が優美な北海道の代表的な桜である「エゾヤマザクラ」を植栽しており、芽吹き、新緑、紅葉と季節感豊かな憩いの空間となります。

今後は、愛称「らてす」を幅広く活用し、皆様から親しまれる広場となるように、さらには、愛称に込められた想いである「道民の健康の維持・増進に貢献し、道民の誇りとなる札幌医科大学であり続ける」ために、地域とともに歩んで参ります。



### 【愛称の理由・込められた想い】

この愛称は、医学の父「ヒポクラテス」の名前から引用し、「らてす」と命名いただきました。「らてす」という音の響きが、建物の前面に設けられた屋根のない台状の場所を指す「テラス」に似ており、利用者になじみやすいということ、「らてす」を逆読みすると「ステラ」になり、「ステラ」が星を表し、北海道のマークが七稜星であることから、「道民の健康の維持・増進に貢献し、道民の誇りとなる大学であり続ける」という想いが愛称に込められております。



広場植栽イメージ(春)



緑道植栽イメージ(秋)

※ 各イメージ図は、設計段階のものです。

## 札幌医科大学コミュニケーションマーク



昭和25年に開学した本学がその先に望む100周年を目指して、教職員及び学生が目標を共有し、ともに歩みを進めるべく、「本学の将来像、目指すべき姿」を改めて問い直し、札幌医科大学としてのブランドメッセージを表現するツールの1つとして、令和5年4月に『コミュニケーションマーク』を制定しました。

コミュニケーションマーク制作の過程においては、学外の専門家の協力のもと、役職員等へのヒアリング、「大学広報プロジェクトタスクフォース(教員と事務職員で構成)」と「大学広報Student Ambassador(両学部学生で構成)」が参画するワークショップ等を通じ、ビジュアル化を進めました。

コミュニケーションマークは、「大学と附属病院で働く教職員、学生が積極的に身につけて、学内外で行うコミュニケーション活動を促進する」広報的な役割を担い、学内外へ発信する媒体(名刺、白衣、各種グッズ等)に使用します。

### 【コミュニケーションマークに込めた想い】

#### ・コンセプト:「世界に羽ばたく札幌医のつばさ」

札幌医科大学(Sapporo Medical University)の頭文字「S」を、世界、未来に向けて飛躍する「翼」や「プロペラの羽」に見立てたマーク。

羽のモチーフは、北海道の地域医療を第一線で担う本学の使命を表す。

羽の残像を感じさせるデザインは「躍動感」、異なる2色の羽の組み合わせは「伝統と未来」「地域とグローバル」「都市と自然」など、一見相反する価値を併せ持つ本校の独自性を表現。

また、世代を超えた卒業生とのつながりや、社会の課題解決に向け様々な境界を越えて挑戦し、新しい価値の創出を目指す「ボーダーレス」な本学の姿勢と意思を込めている。

#### ・マークカラー:「SMUブルー」は、「医療人としての使命感」「若々しさや新しさ」「北海道で育まれた豊かな人間性・人柄」、「SMUレッド」は、「生命力」「人と人との絆」「札幌医科大学の伝統」を表現。



アイデア創発ワークショップの様子



アイデア創発ワークショップの様子



札幌医科大学は、北海道総合開発の一環として、昭和25年に旧道立女子医学専門学校を基礎に設置され、その後、平成5年4月には、札幌医科大学衛生短期大学部(昭和58年4月開学)の発展的な改組に伴い、保健医療学部を増設しました。

また、平成19年4月には独立行政法人化し、「北海道公立大学法人札幌医科大学」となりました。



大野精七 初代学長銅像

●女子医専時代

昭和20年(1945) 4月 北海道立女子医学専門学校創立

●医科系単科大学時代

- 昭和25年(1950) 4月 札幌医科大学開学
- 6月 開学式を挙(6月25日を大学記念日とする)
- 昭和30年(1955) 9月 附属研究機関としてがん研究所設置
- 昭和31年(1956) 3月 大学院医学研究科の設置認可(学生入学定員25人)
- 昭和33年(1958) 1月 医学進学課程の設置
- 昭和43年(1968) 9月 附属臨海医学研究所設置
- 昭和54年(1979) 4月 進学課程及び専門課程の区分を廃止
- 昭和58年(1983) 4月 札幌医科大学衛生短期大学部開学

●医科系総合大学時代

- 平成 5年(1993) 4月 保健医療学部(入学定員90名)を開設  
(看護学科、理学療法学、作業療法学)
- 平成10年(1998) 4月 大学院保健医療学研究科(入学定員24名)を開設  
(看護学専攻、理学療法学、作業療法専攻)
- 平成11年(1999) 4月 附属情報センター設置
- 平成12年(2000) 4月 大学院保健医療学研究科(博士課程後期)(入学定員6名)を開設(理学療法学・作業療法学専攻)
- 平成13年(2001) 4月 大学院医学研究科を再編整備(地域医療人間総合医学専攻、分子・器官制御医学専攻、情報伝達制御医学専攻)
- 平成18年(2006) 4月 附属産学・地域連携センター設置
- 平成19年(2007) 4月 北海道公立大学法人札幌医科大学へ移行
- 平成20年(2008) 4月 大学院医学研究科(修士課程)(入学定員10名)を開設(医科学専攻)
- 平成20年(2008) 10月 医療人育成センターを開設
- 平成23年(2011) 4月 医学部附属がん研究所等を医学部附属フロンティア医学研究所に改組
- 平成24年(2012) 4月 助産学専攻科(入学定員20名)を開設
- 平成26年(2014) 4月 アドミッションセンター設置
- 10月 保健管理センター設置
- 令和 2年(2020) 4月 専攻科公衆衛生看護学専攻(入学定員15名)を開設し、助産学専攻科を専攻科助産学専攻に名称変更
- 令和 5年(2023) 11月 医学部附属フロンティア医学研究所を医学部附属研究所に改組

初代学長 大野 精七氏

(在職期間 昭和二十五年四月一日～昭和三十六年三月三十日)

医学博士 札幌医科大学名誉教授

札幌医科大学名誉学長

大野博士は昭和二十七年七月に創設された「北海道立女子医学専門学校」の初代校長として就任し、昭和二十五年四月の「札幌医科大学」開学に至るまで、医科大学への昇格に情熱を傾け、心血を注がれた。

「札幌医科大学」初代学長に就任後は、外科を専門分野に専らしたことや麻酔科を創設するなど学内改革を行い、二期十年間に渡り、本学の発展に寄与された。

また、大野博士は全日本スキー連盟の創立に参画し、同連盟副会長として、第五回冬季オリンピック札幌大会の誘致に大会実行委員会副委員長として携わるなど、日本のスキー界の発展にも尽力された。

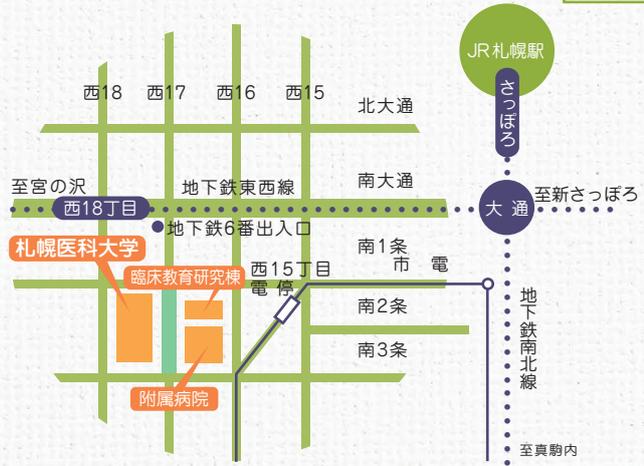
この胸像は、当時の教職員、同窓会、婦人科教室員の有志が、彫刻家佐藤忠長氏に製作を依頼し、昭和三十七年六月二十五日に設置されたものです。

また、台座文字は遠藤正雄氏(五期生、遠藤正之氏の父)の筆によるものです。

## 交通アクセス・建物施設配置図



■JR新千歳空港駅よりJR(快速)で37分



アクセス: ■地下鉄東西線「西18丁目駅」下車、6番出口徒歩5分  
■市電「西15丁目」停留所徒歩5分

## 施設整備後



- ① 基礎医学研究棟
- ② 大学管理棟
- ③ 教育研究棟
- ④ 保健医療学研究棟
- ⑤ 臨床教育研究棟
- ⑥ 札幌医科大学附属医院外来棟
- ⑦ 札幌医科大学附属医院中央診療棟
- ⑧ 札幌医科大学附属医院北病棟
- ⑨ 札幌医科大学附属医院南病棟
- ⑩ 札幌医科大学附属医院西病棟
- ⑪ 体育館・リハビリテーション教育実習棟
- ⑫ 保育所
- ⑬ 札幌医科大学記念ホール
- ⑭ 札幌医科大学交流会館
- ⑮ 細胞プロセッシング施設
- ⑯ 札幌医科大学附属医院ファミリーハウス
- ⑰ 広場「らてす」
- ⑱ 第1駐車場(有料駐車場)
- ⑲ 第2駐車場(有料駐車場)
- ⑳ 東駐車場(有料駐車場)

## 本学へのご寄附について



札幌医科大学は、教育研究、附属医院の環境改善、学生支援など一層の充実を図るとともに、皆様から支持される魅力的な大学づくりを目指しています。多くの学生・研究者を支援するため、広くご寄附・ご支援をお願いしております。クレジットカード等もご利用可能です。詳しくは二次元バーコードよりホームページをご覧ください。

- ・難病の研究を進めて欲しい
- ・市民向けの医療セミナーを開催して欲しい
- ・若い研究者の育成を応援したい

教育研究の更なる向上に努めます!



- ・患者向けの設備を充実して欲しい
- ・最新の医療機器を導入して欲しい
- ・職員向けの研修を設けて、多くの知識・技術を身につけて欲しい

附属医院の環境改善を図ります!



- ・学生に海外派遣の機会を与えたい
- ・学生向け図書を購入に使って欲しい
- ・クラブ活動を応援したい

学生支援に役立ちます!





# 札幌医科大学

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY



札幌医科大学公式  
YouTubeチャンネル



札幌医科大学広報  
公式X



札幌医科大学入試広報  
公式X

## 北海道公立大学法人 札幌医科大学

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目  
電話:011-611-2111(代表) FAX:011-611-2237  
URL:<https://web.sapmed.ac.jp>